Cisco Meeting Server

Cisco Meeting Server 3.10

カスタマイズのガイドライン

2024 年 11 月 26 日

Cisco Systems, Inc. www.cisco.com

コンテンツ

変更履歴 5

1 はじめに 6

1.1 ブランディングファイルを管理するにはどのような方法がありますか? 7

1.2 ブランド化できるもの 8

1.3 ウェブサーバーの要件 8

1.4 このガイドの使用方法 9

2 Cisco Meeting Server web app のカスタマイズ 10

2.1 ファイルのプロパティと名前 16

2.1.1 サインインページの背景画像、アイコン、ロゴ 17

2.1.2 text_strings.json ファイルのパラメータ 18

2.1.3 セルフビューペインにカスタム仮想背景画像 18

2.1.4 utils.json ファイルのパラメータ 19

2.2 カスタマイズ手順の概要（Web サーバーにホストされたブランディング） 19

3 コールのカスタマイズ 21

3.1 IVR メッセージのカスタマイズ 21

3.1.1 カスタマイズする IVR メッセージ 21

3.1.2 IVR メッセージの録音形式 22

3.1.3 IVR 背景画像のプロパティ 22

3.1.4 カスタマイズ手順の概要（Web サーバーのホスト型ブランディング） 22

3.2 SIP/Lync 通話メッセージのカスタマイズ 23

3.2.1 カスタマイズする音声メッセージ 23

3.2.2 音声メッセージのレコーディング形式 29

3.2.3 背景画像のプロパティ 30

3.2.4 カスタマイズ手順の概要（Web サーバーのホスト型ブランディング） 30

3.2.5 見つからないファイルと無効なファイル 31

4 招待状のテキストのカスタマイズ 34
4.1 Cisco Meeting Server web app のカスタムメール招待状 34
4.1.1 ウェブアプリの招待テンプレートの種類 35
4.2 招待状テンプレートのテキストファイルを作成する 36
4.2.1 新しい構文で作成されたカスタム招待メールのコンテンツ 37
ヘッダー 37
フォーマット 37
変数 37
ループ 41
条件 41
論理演算 41
関数 42
空白制御 43
4.2.2 招待状テンプレートの例 43
4.3 Web Bridge 3 を使用してウェブアプリをカスタマイズする手順（Web サーバーのホスト型ブランディング）の概要 45
5 ローカルホストのブランディングを実装する 47
5.1 ウェブ アプリのカスタマイズ 47
5.2 IVR メッセージ、SIP/Lync 通話メッセージ、招待状テキストのカスタマイズ 48
5.3 カスタマイズした invitation_template*.txt をテストする 50
5.4 ローカルでホストされているブランディングファイルを削除する 51
6 API を使用してリモートブランディングを実装する 52
6.1 Web サーバーを設定する 52
6.2 ブランディングに API を使用する 55
6.2.1 ウェブアプリにブランディングを適用する 56

6.2.2 SIP 通話および/またはカスタマイズされた招待状にブランディングを適用する 57
6.2.3 IVR にブランディングを適用する 58

7 ブランディング方法を切り替える 60
7.1 Web サーバー（またはデフォルト）ブランディングからローカルホストのブランディングへ変更する 60
7.2 ローカルでホストされているブランディングから Web サーバーのブランディングに変更する 61
7.3 ローカルホストと Web サーバーのカスタマイズを混在する 61
7.4 ローカルホストのブランディングの使用制限 61

8 ウェブ アプリと SIP エンドポイントの画面レイアウトにロゴを追加する 63

Cisco の法的情報 66

Cisco の商標または登録商標 67

図:

図 1：Meeting Server に関するガイドの概要 7
図 2: ブランディングファイル 11
図 3: ウェブ アプリの仮想背景画像 12
図 4: ウェブ アプリ アセット用の zip ファイルの作成 17
図 5: text_strings.JSON のコンテンツの例 18
図 6：Meeting Server のウェブ管理インターフェイス経由で API にアクセスする 56

変更履歴

日付	変更の概要
2024 年 9 月 27 日	3.10 の新しいバージョン
2024 年 3 月 5 日	3.9 の新しいバージョン
2023 年 9 月 7 日	3.8 の新しいバージョン
2023 年 3 月 16 日	3.7 の新しいバージョン
2022 年 8 月 23 日	3.6 の新しいバージョンです。
2022 年 4 月 20 日	3.5 の新しいバージョンです。
2021 年 12 月 15 日	3.4 の新しいバージョンです。
2021 年 8 月 24 日	3.3 の新しいバージョンです。
2021 年 5 月 25 日	Cisco Meeting Server web app のカスタマイズが更新され、brand_ tag_line パラメーターの注釈が追加されました。
2021 年 4 月 9 日	3.2 の新しいバージョンです。
2021 年 2 月 4 日	Cisco Meeting Server web app のカスタマイズが、サインインページの背景画像の推奨仕様に基づいて更新されました。
2020 年 11 月 30 日	3.1 の新しいバージョンです。
2020 年 7 月 29 日	3.0 の新しいバージョンです。 Cisco Meeting Server web app のカスタマイズ/ブランディングが導入されました。 WebRTC アプリのサポートが削除されました。

1 はじめに

Cisco Meeting Server ソフトウェアは、Cisco Unified Computing Server（UCS）テクノロジに基づく特定のサーバー、または仕様ベースの VM サーバーでホストできます。 このドキュメントでは、Cisco Meeting Server を Meeting Server と呼びます。

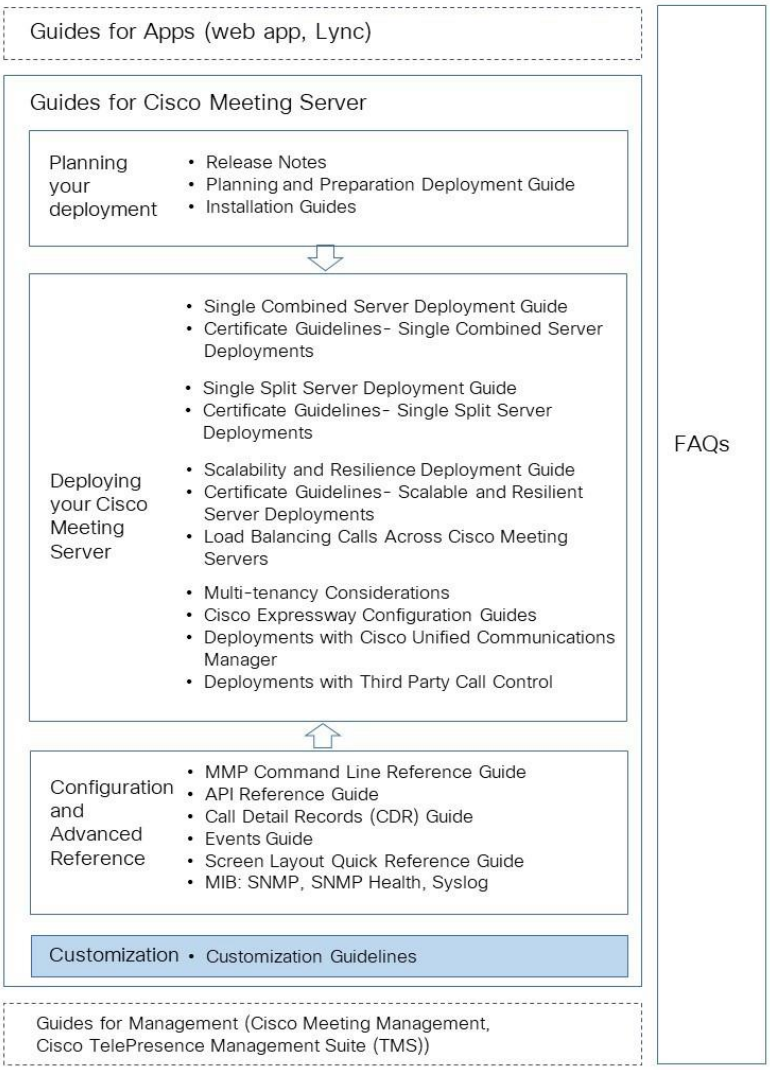
注：Cisco Meeting Server ソフトウェアバージョン 3.0 以降は X シリーズサーバーをサポートしていません。

注：WebRTC 用 Cisco Meeting App（Web Bridge 2）は Cisco Meeting Server バージョン 3.0 から削除されました。 ソフトウェアバージョン 3.0 以降を使用している場合、WebRTC 用 Cisco ミーティングアプリの代わりに、Cisco Meeting Server ウェブアプリを使用する必要があります。 これを行うには、Web Bridge 3 を導入する必要があります。Web Bridge 3 の導入と設定の詳細については、3.0 以降の導入ガイド を参照してください。

このドキュメントでは、リリース 3.10 の Meeting Server ソフトウェアをカスタマイズするための機能について説明します。 これらの機能により、音声プロンプト、背景画像、ロゴ、および招待状に表示されるテキストを変更することができます。

これは該当する導入ガイドに続きます (図 1 参照)。

図 1：Meeting Server に関するガイドの概要



1.1 ブランディングファイルを管理するにはどのような方法がありますか?

ブランディングファイルの管理には 2 つのオプションがあります。

- ブランディングファイルの 1 セットを Meeting Server 上にローカルに保存する。
- ブランディングファイルをリモート Web サーバーに保存する。「Web サーバーの要件」を参照してください

1.2 ブランド化できるもの

ブランディングファイルの保存に Web サーバーを使用している場合、以下のリストをブランド化することができます。 ローカルでホストされているブランディングを選択している場合、適用される制限についてはセクション 7.4 を参照してください。
Meeting Server で主催される参加者のミーティング体験の一部は、ブランド化することができます。これには次のような要素が含まれます。

- [セルフビュー] ペイン内のウェブアプリのサインイン背景画像、サインイン ロゴ、サインイン ロゴの下のテキスト、アイコン、カスタム仮想背景画像、およびブラウザー タブ上のテキスト
- IVR メッセージ
- SIP および Lync 参加者のスプラッシュ画面の画像、およびすべての音声プロンプト/メッセージ、
- ミーティング招待状のテキスト。

単一のリソース セットのみが指定された単一のブランドを適用する場合（ウェブアプリのサインインページ 1 つ、音声プロンプト 1 つ、招待テキスト 1 つ）、これらのリソースは導入内のすべてのスペース、IVR、および Web Bridge に使用されます。。 複数のブランディングにより、異なるスペース、IVR、Web Bridge に異なるリソースを使用できます。 リソースは、システム、テナント、スペース、または IVR レベルで、API を使用して割り当てることができます。

1.3 ウェブサーバーの要件

リモートブランディングを使用する場合は、Web サーバー上に .wav、jpg、png、またはアーカイブ（zip 形式）のファイルが保存できるディレクトリが必要です。 Web サーバーは Call Bridge から到達可能である必要があり、Call Bridge にいかなる形式の HTTP 認証の実行も要求してはなりません。Web サーバーの設定に関する詳細は、セクションを参照してください。

Call Bridge がカスタマイズファイルを使用する必要があるときにインポートが発生します。

注：複数のブランディングが必要な場合、例えば、テナントごとに 1 つずつの場合は、ブランディングごとに個別の Web Bridge を導入する必要があります。 それぞれが VM サーバー上でスタンドアロンの Web Bridge になることができます。

1.4 このガイドの使用方法

第 2 章 ではウェブアプリのブランディングを取り扱います。 ウェブ アプリでブランディングできる要素について詳しく説明し、自分のブランディングでアプリをカスタマイズする方法について説明します。

第 3 章 では、参加者が SIP エンドポイントまたは Lync を使用して IVR にダイヤルする、またはスペースに直接ダイヤルするときに、参加者に表示される画像とメッセージのブランディングを取り扱います。

第 4 章 では、参加者に送信され、通話またはスペースに参加するよう招待するために表示されるテキストのカスタマイズについて詳述します。

第 5 章 では、ローカルでホストされているブランディングファイルからカスタマイズを実装する手順について説明します。

第 6 章 では、API を使った呼び出しのカスタマイズについて、手順を追った例を示しています。

第 7 章 では、ブランディング方法の切り替え方及びその制限事項について説明します。

注：すべての情報は、特に記載のない限り、Web サーバーのブランディングとローカルでホストされたブランディングに適用されます。

---

2 Cisco Meeting Server web app のカスタマイズ

バージョン 3.0 から、Cisco Meeting Server web app のサインインページをカスタマイズしてブランド化できます。

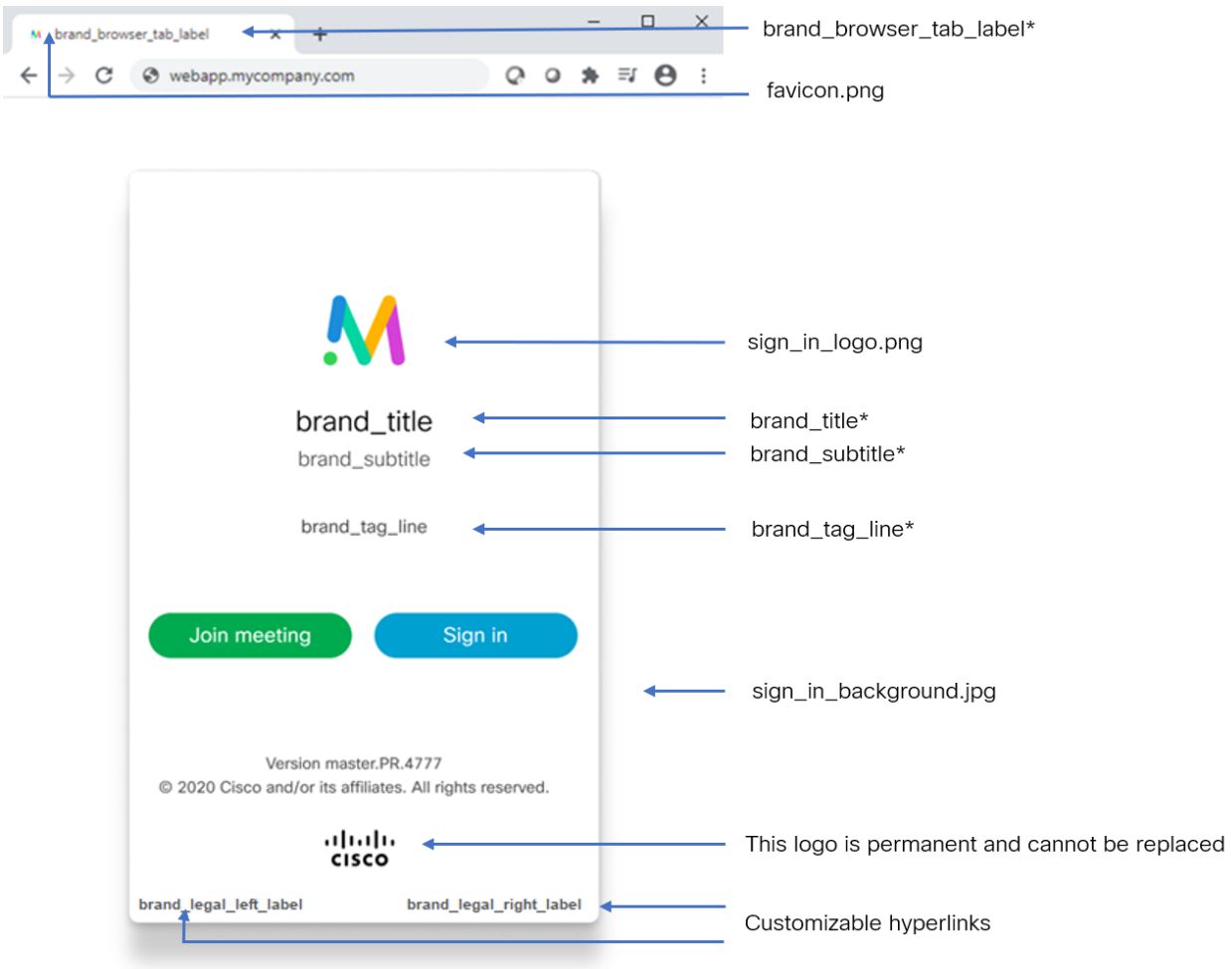
注：以前の Cisco Meeting App for WebRTC ブランディング zip ファイルを使用することはできません。ウェブアプリ専用の新しいブランディング zip ファイルを作成して導入する必要があります。 ただし、ブランディング zip ファイルは、以前の WebRTC アプリと同じ方法でウェブアプリに展開されます。 (resourceArchive は webBridgeProfiles API の下にあります。)

API を使用して、ウェブ アプリのこれらの要素をカスタマイズできます。

- ブラウザタブ、ブックマーク/ショートカットの隣に表示されるアイコン
- ブラウザタブ上のテキスト
- サインインの背景画像
- サインインダイアログボックス - ロゴの表示
- サインインダイアログボックス - ロゴの下のテキスト
- カスタムハイパーリンク
- カスタム仮想背景画像

これらの要素の配置は図 2 および図 3 に示されています。

図 2: ブランディングファイル



*これらすべての文字列は、単一の text_strings.JSON ファイル内に含まれています (表 1) を参照してください。

図 3: ウェブ アプリの仮想背景画像

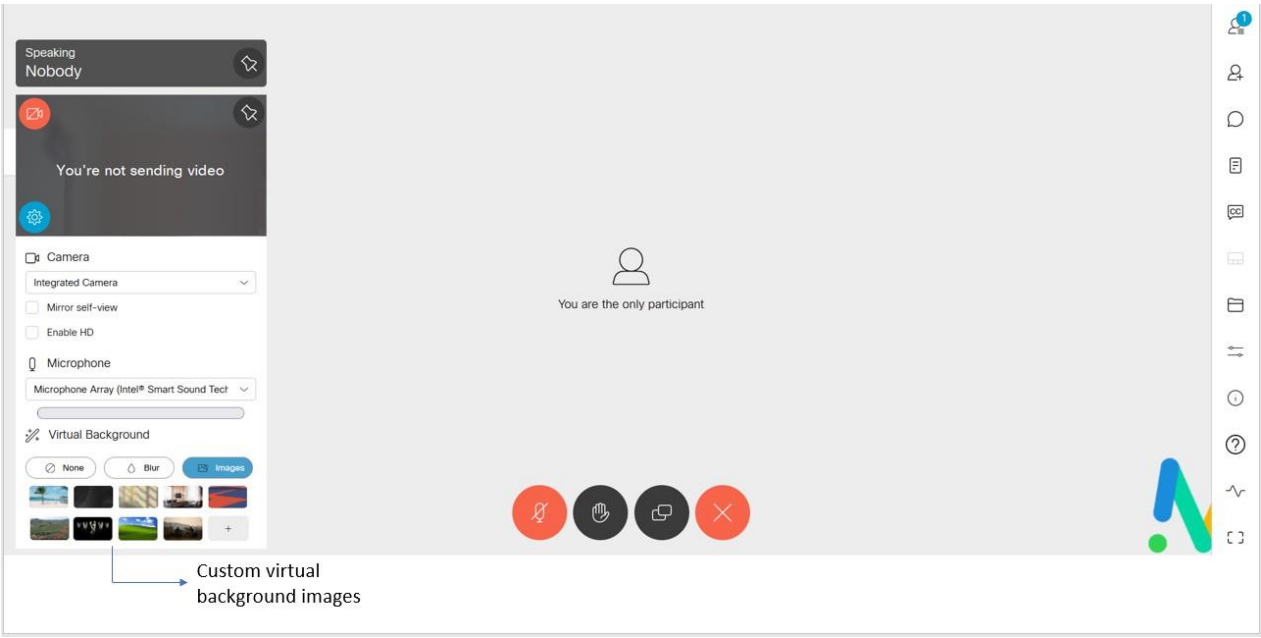


表 1 に、図 2 と 図 3 のようにウェブアプリをカスタマイズするためにアップロードできるファイルと、その推奨サイズを確認することができます。

注：すべてのファイルは指定されたファイル形式（.png、.jpg、.jpeg または .JSON）である必要があります。 すべてのファイル名では大文字と小文字が区別され、 表 1 で使用されるファイル名の規約に従う必要があります。

ウェブ アプリのユーザ インターフェイスは 23 の言語にローカライズされています。 既定のウェブアプリのユーザ インターフェイス言語は、ブラウザーの既定に基づいています。 ウェブアプリユーザーが別の言語を選択する場合、アプリにログインするかミーティングに参加する前に選択できます。 ウェブアプリのユーザーが優先言語を選択する方法の詳細については、「Cisco Meeting Server 3.1（以降）ウェブアプリの重要情報」を参照してください。

この新機能をサポートするために、Cisco Meeting Server には表 1 で説明されているように、新しいウェブアプリ資産「text_strings_ xx_XX.JSON」が追加されました。 これらの言語はソフトウェアの一部であり、特定の言語ファイルをカスタマイズしない限り、追加の設定は必要ありません。 特定の言語ファイルが存在しない場合、Meeting Server はデフォルトで text_strings.JSON ファイルを使用します。

表 1: ウェブ アプリ アセットの説明と仕様

ファイル名	説明	最大ファイルサイズ	推奨されるサイズ、形式、アスペクト比
favicon.png	ブラウザタブのラベルの隣、およびブックマーク/ショートカットに表示されるアイコン	128 KB	• 推奨解像度: 16x16 ピクセルまたは 32x32 ピクセル • 推奨アスペクト比: 1:1 (スクエア)
sign_in_logo.png	ランディングページ、スプラッシュ画面、およびユーザーポータルサイトで表示されるロゴ	250KB	• 推奨解像度: 128x128 ピクセル • 推奨アスペクト比：1:1 の正方形を推奨 • その他の推奨事項: 透明な背景
sign_in_背景.jpg	ランディングページで表示される背景	500 KB	• 推奨解像度: 1920x1080 ピクセル • 推奨アスペクト比：16:9 を推奨
text_strings.json	上書き可能なテキスト文字列の JSON 形式のファイル。 サポートされている文字列: • brand_title: メインのブランド名 • brand_subtitle：下に 2 番目のテキスト • brand_title brand_tag_line：下に 3 番目のテキスト • brand_subtitle brand_browser_tab_label: ブラウザ内のタブ名	16 KB	推奨される長さ: • brand_title: 最大 24 文字 (1 行に表示)、または 48 文字 (2 行に表示) まで。 • brand_subtitle: 最大 24 文字 (1 行に表示)、または 48 文字 (2 行に表示) まで。 • brand_tag_line：最大 100 文字 • brand_browser_tab_label：最大 64 文字

ファイル名	説明	最大ファイルサイズ	推奨されるサイズ、形式、アスペクト比
text_strings_xx_ XX.json（バージョン 3.1 以降）	特定の言語のテキスト文字列。たとえば、「text_strings_fr_CA.json」では、ウェブアプリのユーザーインターフェイスがカナダ系フランス語になります。 text_strings.json と同じものをサポートします。 この形式で定義されたテキスト文字列は、指定された言語の「text_strings.json」で指定された文字列を上書きします。 サポートされている文字列: • brand_title: メインのブランド名 • brand_subtitle：下に 2 番目のテキスト • brand_title brand_ tag_line：下に 3 番目のテキスト • brand_subtitle brand_browser_tab_label: ブラウザ内のタブ名 • brand_legal_left_label: 左側ハイパーリンク名 • brand_legal_left_link：ログインする前にユーザーが知る必要がある法的情報への左側ハイパーリンク。 • brand_legal_right_label：右のハイパーリンク名 • brand_legal_right_ link：ログインする前にユーザーが知る必要がある法的情報への右側ハイパーリンク。	16KB	推奨される長さ: • brand_title: 最大 24 文字 (1 行に表示)、または 48 文字 (2 行に表示) まで。 • brand_subtitle: 最大 24 文字 (1 行に表示)、または 48 文字 (2 行に表示) まで。 • brand_tag_line: 100 文字まで • brand_browser_tab_label: 最大 64 文字 • brand_legal_left_label: 英語で最大 70 文字、その他の言語で最大 50 文字 • brand_legal_right_label：その他の言語で最大 50 文字、英語で最大 70 文字

ファイル名	説明	最大ファイルサイズ	推奨されるサイズ、形式、アスペクト比
vb_images_<画像番号>.jpeg	ウェブ アプリのセルフビュー ペインにサムネイルとして表示される仮想背景画像です。 参加者はウェブ アプリ ミーティング中に背景として使用できます。	1.5 MB	• 推奨解像度: 1280x720 ピクセル。 最適な画質を得るには、1920x1080 ピクセルの解像度を推奨します。 • 推奨アスペクト比: 16:9 • その他の推奨事項：画像ファイルは、次のファイル命名規則に従う必要があります：**vb_images_<image number>.jpeg**。 画像番号は 1、2、3、4 のような順番でなければなりません。例えば、vb_images_1.jpeg、vb_images_2.jpeg のようになります。 欠落している画像番号は、ウェブ アプリで空白のサムネイルとしてレンダリングされます。

utils.json	ウェブ アプリで表示されるカスタム仮想背景画像の数を含む JSON 形式のファイル。 カウントは次の形式で指定します。
	{
	"vb_count": <count>
	}
	「vb_count」は、ウェブ アプリにサムネイルとして表示される画像の数を示します。
	たとえば、
	{
	"vb_count":12
	}
			ファイル中の個数は、zip ファイルに追加された画像の数以下でなければなりません。 指定された個数が zip ファイルでアップロードされた実際の画像数より多い場合、追加のサムネイル画像が画像なしで表示されます。

リモート Web サーバーでホストされるブランディングの場合、ブランディングファイルは Web サーバーに保存されたアーカイブ（zip）ファイル内に保持されます。 このリソースアーカイブの場所は、API により設定されます。ウェブ管理ユーザーインターフェースを使用する場合は、セクション 6.2.1 を参照してください（サードパーティ アプリケーションを使用する場合は、POST メソッドを /webBridgeProfiles ノードに、または PUT メソッドを /webBridgeProfiles/<web bridge profile id> に設定します。）

Call Bridge は Web サーバーからアーカイブファイルを取得し、Web Bridge にプッシュして提供します。 障害が発生した場合（たとえば、設定された URI に到達できない場合）、アラームがウェブ管理者インターフェイスと API の /system/alarms ノードに表示されますが、ユーザーはウェブアプリを使用してログインできます。
ZIP 形式のブランディングファイルの保存場所と保存方法に関するローカルでホストされているブランディング情報については、第 5 章を参照してください。

2.1 ファイルのプロパティと名前

ブランディングファイルは、zip ファイルなどのアーカイブファイルにまとめて配置する必要があります。 圧縮する前の、すべての背景画像および他のブランディング画像を含むブランディングファイルの合計ファイルサイズは、15 MB 未満でなければなりません。 フォルダ内の各ブランディングファイルと背景画像のサイズは、それぞれ 512 KB と 1.5 MB 以下でなければなりません。
Web サーバーのブランディングの場合、zip ファイルは Call Bridge により取得され、Web Bridge がウェブアプリをブランド化するために使用されます。 ローカルでホストされるブランディングの場合、zip ファイルはウェブアプリをブランディングするために Web Bridge によってローカルに取得されます。

注：ファイルを圧縮する場合、ブランド化されたファイルを含むフォルダは圧縮しないでください。これが行われると、フォルダの追加レイヤーが作成されます（zip 形式のファイル > フォルダ > ブランド化されたファイル）。 代わりに、ブランド化されたファイルをハイライト表示し、それらを右クリックして zip 形式に圧縮します（または、zip アプリケーションを開き、ファイルをまとめて zip 形式で圧縮します）。これにより、フォルダの追加レイヤーを作成せずに、ブランド化されたファイルを含む zip ファイルが作成されます（例：zip ファイル > ブランド化されたファイル）。

例えば、図 4 の webapp_client.zip フォルダにはブランド化されたファイルが含まれています。そのため、リモートブランディングの Web Bridge カスタマイズを設定するときは、http://<webserver address>/Branding/webapp_client.zip のパスを使用できます。

図 4: ウェブ アプリ アセット用の zip ファイルの作成

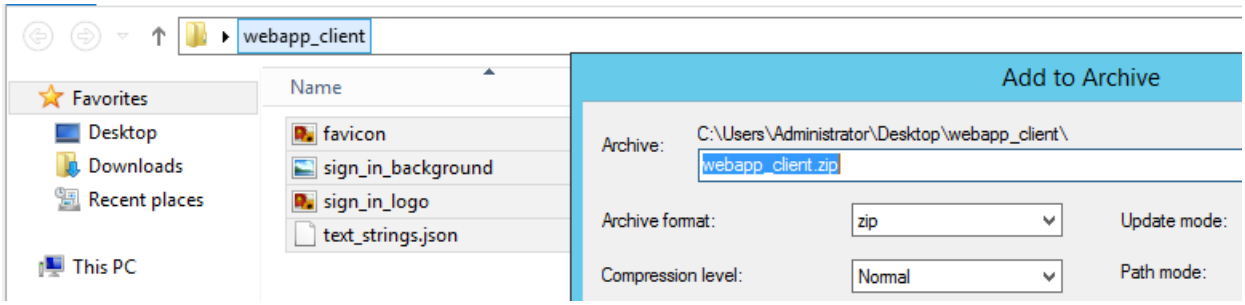


表 2: ウェブアプリのアセット

使用	使用するファイル名 (大文字と小文字は区別されます)
ログインページの背景画像	sign_in_background.jpg
ログインページのロゴ	sign_in_logo.png
ブラウザタブのラベル、ブックマーク/ショートカットのとなりに表示されるアイコン	favicon.png
ログインロゴ下のテキストとブラウザタブのテキスト	text_strings.json
ウェブ アプリ ミーティング中に適用できる仮想背景画像。	vb_images_<画像番号>.jpeg
ウェブアプリに表示される仮想背景画像の数	utils.json

2.1.1 サインインページの背景画像、アイコン、ロゴ

背景画像は .jpg 形式、ロゴファイルは .png 形式でなければなりません。 ロゴには .png ファイルの透明性がサポートされており、推奨されています。

背景画像の最大サイズは 500kb のサイズ制限により制限されます。 最大 1920x1080 ピクセルの解像度の画像を使用することを推奨します。ただし、最大サイズを超えない範囲で他の解像度を使用することもできます。

ロゴ画像の推奨解像度は幅 254 ピクセル、高さ 64 ピクセルです。これらの寸法は、サインインボックスの水平方向の端までスペースを満たします。 このファイルのサイズは 250 KB 未満でなければなりません。

2.1.2 text_strings.json ファイルのパラメータ

text_strings.json ファイルは、独自の要件に合わせて上書きできるテキスト文字列の json 形式のファイルです。 サポートされている文字列は、表 3 に記載されています。

表 3: text_strings.JSON **パラメータ**

パラメータ	説明
brand_title	メインブランド名
brand_subtitle	下に 2 番目のテキスト
brand_tag_line	下に 3 番目のテキスト
brand_browser_tab_label	ブラウザでのタブの名前

図 5 の例に示されているように、これらのテキスト文字列はそれぞれカスタマイズできます。

図 5: text_strings.JSON **のコンテンツの例**

```
{
 "brand_title": "Cisco Meeting Server",
 "brand_subtitle": "web app",
 「brand_tag_line」：「いつでも、どこでもミーティングに参加」、
 "brand_browser_tab_label": "Cisco Meeting Server web app"
}
```

注：text_strings.JSON ファイルでは、直線引用符を使用する必要があります。 システムがデフォルトでスマート引用符を使用する場合、設定を変更する必要があります。

注：ブランディングをテストする場合は、ページを 2 回リフレッシュする必要があります（Google Chrome では CTRL+F5 を使用）。ブラウザは 1 回のリフレッシュで画像を再読み込みするわけではないためです。

注意: ユーザポータルが無効になっている場合、パラメータ brand_tag_line に追加されたテキストは表示されません。

2.1.3 セルフビューペインにカスタム仮想背景画像

カスタム仮想背景画像は、.jpeg 形式で、かつ、ファイル名は vb_images_<image number>.jpeg **です**。 画像番号は 1、2、3、4 のような順番でなければなりません。例えば、vb_images_1.jpeg、vb_images_2.jpeg のようになります。 欠落している画像番号は、ウェブ アプリで空白のサムネイルとしてレンダリングされます。

画像は 1280x720 ピクセル以上の解像度が必要です。 最適な画質を得るために、1920x1080 ピクセルの解像度を推奨します。

各画像の最大ファイルサイズは 1.5 MB、アスペクト比 16:9 です。

2.1.4 utils.json ファイルのパラメータ

utils.json ファイルは json 形式のファイルで、ウェブアプリで表示されるカスタム仮想背景画像の数を指定するために作成されます。 JSON ファイルの数は、zip ファイルに追加された画像の数以下である必要があります。 指定された数が zip ファイルでアップロードされた実際の画像数より多い場合、追加のサムネイルが画像なしで表示されます。 JSON ファイルには、次の形式で画像カウントが含まれている必要があります。

```
{
"vb_count":<count>
}
```

「vb_count」は、ウェブ アプリにサムネイルとして表示される画像の数を示します。 以下の例のようにカウントを指定することができます。

```
{
"vb_count":12
}
```

12 個の背景画像がウェブアプリに表示されます。

2.2 カスタマイズ手順の概要（Web サーバーにホストされたブランディング）

以下の手順では、カスタマイズ手順の概要を説明しています。詳細な手順については、第 6 章を参照してください。

1. これらのファイルを含む zip アーカイブファイルを作成します。
   - favicon.png
   - sign_in_background.jpg
   - sign_in_logo.png
   - text_strings.json
   - vb_images_<画像番号>.jpeg
   - utils.json
2. Web サーバー上で、カスタマイズファイル用のディレクトリを作成し、その中に zip ファイルを保存します。

3. API を使用して、resourceArchive フィールドと、zip ファイルが保存されている Web サーバーの URL を指定する webBridgeProfile ノードを作成し、webBridge ノードに適用します。 (詳細は 第 6 章 を参照してください)。 Meeting Server はこれらの情報を使用して Web サーバーから zip ファイルを取得します。

注：Web Bridge ごとに 1 つのアーカイブファイルしか適用できません。

注：パスにポート値を指定すると、http には :80、https には :443 がデフォルトのポート値の代わりに使用されます。 ポート値を指定しない場合、デフォルト値が使用されます。 ポート値を指定する場合、ステップ 2 で使用した Web サーバーがこのポートでリッスンしていることを確認してください。

---

3 コールのカスタマイズ

通話のカスタマイズには 2 つのタイプがあります。

- IVR にダイヤルするときに聞こえるメッセージと表示される画像
- SIP（Lync を含む）コールとして Meeting Server のスペースに直接ダイヤルするときに聞こえるメッセージと表示される画像

3.1 IVR メッセージのカスタマイズ

IVR を呼び出したときに聞こえるメッセージは、ivrBrandingProfile を使用することで、API 経由でカスタマイズできます。 このプロファイルは、システム レベル、テナントごと、または個々の IVR に適用できます。

注：通話ブランディングファイルは Meeting Server のアップグレード後には保持されないため、アップグレード後に再度アップロードする必要があります。

3.1.1 カスタマイズする IVR メッセージ

次の表では、必要なすべての IVR メッセージと録画に使用する関連ファイル名を示します。

表 4: カスタマイズ用の IVR メッセージ

メッセージの本文	使用するファイル名（大文字と小文字は区別されます）	再生タイミング
コール ID を入力してから、「#」（シャープ）を押してください。	ivr_id_entry.wav	特定のスペースを入力するために IVR 経由でダイヤル
そのコール ID を認識できません。もう一度やり直してください。	ivr_id_incorrect_try_again.wav	スペースに参加するために間違ったコール ID が入力された
もう一度入力してください。今回が最後の入力となります。	ivr_id_incorrect_final_attempt.wav	スペースに参加するために、2 件の間違った PIN/通話 ID が入力されました
その通話 ID を認識できません。Goodbye.	ivr_id_incorrect_goodbye.wav	スペースに参加するために間違ったコール ID を 3 回入力
Cisco ミーティングにようこそ。	ivr_welcome.wav	スペースに参加する
接続できませんでした。 Goodbye.	ivr_timeout.wav	IVR 経由でダイヤルした後、コール ID を入力しないと、コールがタイムアウトになる

3.1.2 IVR メッセージの録音形式

Audacity で作成し、シングルトラックの PCM 16 として 8, 16, 22.05, 32 で保存した音声ファイルを使用します。44.1 または 48 kHz サンプルレート、16 ビット/サンプル、モノラル。 各録画のファイルサイズは 400kB 未満でなければなりません。

注：これらのプロンプトの最初と最後に無音の時間を追加する必要はありません。

注：ブラストダイヤルファイルとリモートホスティングの場合を除き、各録画の推奨ファイルサイズは 400KB 未満ですが、Meeting Server はほとんどの場合、これより大きいファイルも処理できます。

3.1.3 IVR 背景画像のプロパティ

背景画像ファイルは .jpg 形式で、サイズは 500kB 未満、最大で幅 1920 x 1200 ピクセルでなければなりません。 画像は中央揃えされ、拡大縮小され、アスペクト比を維持するために黒でパディングされます。 プログレッシブ JPEG には対応していません。

表 5: カスタマイズ用の IVR 背景画像

画像の使用	使用するファイル名 (大文字と小文字は区別されます)
IVR 背景画像	ivr_background.jpg

3.1.4 カスタマイズ手順の概要（Web サーバーのホスト型ブランディング）

以下の手順では、カスタマイズ手順の概要を説明しています。詳細な手順については、章を参照してください。

注：Web サーバーでホストされるブランディングを使用する場合は、Web サーバーが WAV および JPEG ファイル拡張子に対応する MIME タイプで正しく設定されていることを確認してください（例：audio/wav および image/jpeg MIME タイプ）。

---

1. Web サーバー上に IVR カスタマイズファイル用のディレクトリを作成し、その中にセクション 3.1.1 および セクション 3.1.3 に記載されているすべてのファイルを配置します。 これらのファイルを圧縮しないでください

Cisco は音声とビデオファイルのアーカイブを作成しました。zip ファイルはこのウェブページの [カスタマイズ（Customization）] サブセクションからダウンロードできます。 カスタムファイルとデフォルトファイルの混在が必要な場合は、ファイルを個別に使用できます。 必要なファイルをディレクトリにコピーする必要があります。 ファイルが見つからない場合、代替ファイルまたは既定ファイルは代わりに使用されません。

2. API を使用して、resourceLocation フィールドを指定する ivrBrandingProfile と、カスタマイズされた ivr ファイルが保存される Web サーバーの URL を作成します。 （詳細はセクションを参照してください）。 Meeting Server はこれらの情報を使って Web サーバーからファイルを取得します。
3. この ivrBrandingProfile を使用して次の場所での通話をカスタマイズします:
   a. システムレベル (つまり、グローバルシステムプロファイルの一部として)
   b. テナントごと (テナント定義の一部)
   c. IVR ごと (IVR 定義の一部)

注：IVR ブランディングが複数のレベルで適用されている場合、定義されている最も低いレベルの ivrBrandingProfile がコールレッグで使用されます。 システム レベルで適用される ivrBrandingProfile のみが単一ブランディングに使用されます。 API リファレンスの「プロファイルを使用する」セクションを参照してください。

3.2 SIP/Lync 通話メッセージのカスタマイズ

このセクションでは、SIP または Lync エンドポイントから Meeting Server スペースにダイヤルする際の通話エクスペリエンスをカスタマイズする方法について説明します。

Web サーバーがホストするブランディングの場合、ファイルが 1 回以上の通話で継続的に使用されている間、ファイルは Call Bridge 上に保持されます。 背景画像または音声メッセージを変更した場合、通話のブランディングが完了し、ファイルが再取得されるまで、新しい画像および音声ファイルは使用されません。

3.2.1 カスタマイズする音声メッセージ

次の一覧では、必要なすべての音声メッセージとレコーディングに使用する関連ファイル名を示します。

表 6: カスタマイズ用の SIP 通話メッセージ

メッセージの本文	使用するファイル名（大文字と小文字は区別されます）	音声通話の繰り返し	再生タイミング
Cisco ミーティングへようこそ	welcome.wav	なし	通話に参加する
接続できませんでした。Goodbye.	タイムアウト.wav	なし	IVR 経由でダイヤルし、コール ID を入力しないと通話がタイムアウトします
こんにちは。 Cisco コールに招待されました。	call_outgoing_welcome.wav	なし	API で confirmation が True に設定されている場合、「call_」プロンプトは、cospace に関連付けられていない通話から再生されます。
通話に参加するには「1」を押してください。	call_join_confirmation.wav	なし	「こんにちは。 Cisco コールに招待されました」というプロンプトが再生された後
今、コールに参加しています。	call_join.wav	なし	「1」を押して通話に参加した後
Cisco ミーティングに参加するよう招待されています。	cospace_outgoing_welcome.wav	なし	API で confirmation が True に設定されている場合、設定されたミーティングで「cospace_」ミーティングが再生されます（例：cospace ミーティング）
「1」を押してミーティングに参加してください。	cospace_join_confirmation.wav	なし	「こんにちは。 Cisco ミーティングに招待されました」というプロンプトが再生された後
現在ミーティングに入っています。	cospace_join.wav	なし	SIP エンドポイントからスペースの URI にダイヤルした後、または IVR をダイヤルし、スペースのコール ID を入力した後 (スペースに PIN がある場合、PIN の後に再生)
「1」を押してミーティングに参加、または「*」を押して切断	cospace_blast_dial_join_confirmation.wav	なし	ブラストダイヤル通話中にプロンプトが再生される
ミーティングから切断されました	disconnected.wav	なし	参加者がミーティングから切断されました。

メッセージの本文	使用するファイル名 (大文字と小文字は区別されます)	音声通話の繰り返し	再生タイミング
このミーティングはロックされています。入室の許可を待っています。	locked_you_are_waiting.wav	なし	参加者はミーティングに参加するためにアクティベートされるまで待機しています (バージョン 2.9 以降)
このミーティングは録画されています	meeting_recorded.wav	なし	録音が開始されたとき、または録音されている通話に参加したとき
このミーティングのレコーディングはもう行われていません	meeting_recording_ended.wav	なし	レコーディングが終わる
このミーティングはストリーミング配信されています。	meeting_streamed.wav	なし	ストリーミングが開始されます (バージョン 2.1 以降)
このミーティングはもうストリーミングされていません	meeting_streaming_ended.wav	なし	ストリーミングが停止（バージョン 2.1 以降）
ミーティングは終了しました	meeting_ended.wav	なし	ミーティングは終了しました。
ミーティングはロック解除されています	meeting_unlocked.wav	なし	ミーティングの状態がロックからロック解除に変更されます。 これはロビーにいないすべての参加者に対して再生されます (バージョン 2.8 以降)。
ミーティングはロックされています	meeting_locked.wav	なし	ミーティングの状態がロックされていないからロックに変更されます。 これはロビー以外の参加者全員に対して再生されます (バージョン 2.8 以降)。
参加者はあなただけです	only_participant.wav	はい	ミーティングの参加者は 1 人だけです。
PIN を入力してからシャープ（#）を押してください。	passcode_entry.wav	なし	スペースに入るには PIN が必要です

メッセージの本文	使用するファイル名 (大文字と小文字は区別されます)	音声通話の繰り返し	再生タイミング
パスコードをお持ちの場合は入力してから「#」を押してください。 または「#」を押してください。	passcode_or_blank_required_ entry.wav	なし	主催者が主催者としてスペースに入るにはパスコードが必要ですが、ゲストは # (シャープ) キーを使用するだけです (バージョン 2.1 以降)
パスコードをお持ちの場合は入力してから「#」を押してください。 そうでない場合は、しばらくお待ちください。	passcode_or_blank_timeout_ entry.wav	なし	主催者が主催者としてスペースに入るにはパスコードが必要ですが、ゲストは短いタイムアウト後に参加します (バージョン 2.1)
PIN が正しくありません。 もう一度お試しください。	passcode_incorrect_try_ again.wav	なし	スペースに参加するために入力された PIN が正しくない
もう一度入力してください。今回が最後の入力となります。	passcode_incorrect_final_ attempt.wav	なし	スペースに参加するための 2 つの PIN/通話 ID が正しく入力されていません。
PIN が正しくありません。 Goodbye.	passcode_incorrect_goodbye.wav	なし	スペースに参加するために間違った PIN を 3 回入力した後
ミーティングには 1 人の参加者がいます。	total_participant_1.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 2 人の参加者がいます。	total_participant_2.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 3 人の参加者がいます。	total_participant_3.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 4 人の参加者がいます。	total_participant_4.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）

メッセージの本文	使用するファイル名 (大文字と小文字は区別されます)	音声通話の繰り返し	再生タイミング
ミーティングには 5 人の参加者がいます。	total_participant_5.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 6 人の参加者がいます。	total_participant_6.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 7 人の参加者がいます。	total_participant_7.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 8 人の参加者がいます。	total_participant_8.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 9 人の参加者がいます。	total_participant_9.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 10 人の参加者がいます。	total_participant_10.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 11 名の参加者がいます。	total_participant_11.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 12 名の参加者がいます。	total_participant_12.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 13 人の参加者がいます。	total_participant_13.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 14 人の参加者がいます。	total_participant_14.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）

メッセージの本文	使用するファイル名（大文字と小文字は区別されます）	音声通話の繰り返し	再生タイミング
ミーティングには 15 人の参加者がいます。	total_participant_15.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 16 名の参加者がいます。	total_participant_16.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 17 人の参加者がいます。	total_participant_17.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 18 人の参加者がいます。	total_participant_18.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 19 名の参加者がいます。	total_participant_19.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 20 人の参加者がいます。	total_participant_20.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
ミーティングには 20 人を超える参加者がいます。	total_participant_greater_than_20.wav	なし	ミーティングに積極的に参加している参加者の数を再生するように設定された DTMF コマンドを入力した後（バージョン2.8 以降）
主催者が参加するのを待っています	waiting_for_host.wav	はい	ミーティング主催者の参加を待っている間

注：繰り返しのラベルが付いた音声プロンプトが、音声通話者に対して繰り返し再生されます。 ビデオ通話者に対して 1 回再生されます。 繰り返し音声プロンプトが繰り返されるのを防ぐには、その音声プロンプトの後に、無音期間（2〜3 秒、あまり頻繁に繰り返さない場合はそれ以上）をレコーディングします。

注：participant_join.wav と participant_leave.wav はそれぞれ参加トーンと退出トーンであり、参加者がスペースに参加または退出したことを示します。どちらのトーンもカスタマイズできません。

注：置換音声ファイルの形式が無効な場合は、何も再生されません。

3.2.2 音声メッセージのレコーディング形式

独自の音声メッセージをレコーディングする予定の場合は、各プロンプトをタイプ「WAV (Microsoft) signed 16 bit PCM」として保存します。 音声ファイルは Audacity を使って適切な形式に変換することができます。 プロジェクトレートは 8000、16000、22050、32000、44100、48000Hz のいずれかでなければなりません。

別のアプリケーションを使用してファイルを作成する場合、出力は次のようでなければなりません。

- シングルトラック PCM 形式
- 16 ビット/サンプル
- モノラル
- 8、16、22.05、32、44.1 または 48 kHz サンプルレート

レコーディングが繰り返される場合、ファイルサイズは 1000kB 未満でなければなりません。 16 kHz のサンプルレートを使用する場合、これは 32 秒で十分です。 その他のすべてのレコーディングのファイルサイズは 400kB 未満でなければなりません。

注：他の音声ツールのテストは行っていません。使用すると問題が発生する可能性があります。

注：繰り返ししないプロンプトの最初と最後に、無音の追加の期間を含める必要はありません。 繰り返すプロンプトの場合、無音を使用してインスタンス間にギャップを作成できます。

注：ブラストダイヤルファイルとリモートホスティングの場合を除き、各録画の推奨ファイルサイズは 400KB 未満ですが、Meeting Server はほとんどの場合、これより大きいファイルも処理できます。

3.2.3 背景画像のプロパティ

背景ファイルは .jpg 形式で、サイズは 500kB 未満、最大で幅は 1920 ピクセル、高さは 1200 ピクセルでなければなりません。 画像はアスペクト比を維持するために、中央揃え、拡大縮小、埋め込みが行われます。 プログレッシブ JPEG には対応していません。

表 7: カスタマイズ用の SIP 通話の背景画像

画像の使用	使用するファイル名 (大文字と小文字は区別されます)
通話ロゴ	背景.jpg
PIN の入力が必要な場合に画面を表示できます。	passcode_background.jpg
PIN が必要な場合に画面が表示されますが、ゲストは # （シャープ）キーを使用するだけです（バージョン 2.1 以降）	passcode_or_blank_required_background.jpg
主催者として coSpace に入るために PIN が必要な場合、ゲストは短いタイムアウト後に参加する場合に画面が表示される可能性があります（バージョン 2.1 以降）	passcode_or_blank_timeout_background.jpg
画面は、アクティベーションを待っているときに表示できます (主催者の参加を待っている、ミーティングのロックを解除する必要があるなど)。	deactivated_background.jpg

注：/callBrandingProfiles の背景画像の動作と選択は、/ivrBrandingProfiles には影響しません。

注：ローカルで主催されるブランディングでは、通話の背景画像と ivr 背景画像には **`background.jpg`** のみが使用されます。**`passcode_background.jpg`**、**`passcode_or_blank_required_background.jpg`**、**`passcode_or_blank_timeout_background.jpg`**、**`deactivated_background.jpg`** と **`ivr_background.jpg`** は無視されます。

3.2.4 カスタマイズ手順の概要（Web サーバーのホスト型ブランディング）

以下の手順では、カスタマイズ手順の概要を説明します。手順の詳細な例については、章を参照してください。 ローカルでホストされるブランディングの実装手順は、章を参照してください。

注：Web サーバーでホストされるブランディングを使用する場合は、Web サーバーが WAV および JPEG ファイル拡張子に対応する MIME タイプで正しく設定されていることを確認してください（例：audio/wav および image/jpeg MIME タイプ）。

1. Web サーバー上に IVR カスタマイズファイル用のディレクトリを作成し、その中にセクション 3.2.1 および セクション 3.2.3 に記載されているすべてのファイルを配置します。 これらのファイルを圧縮しないでください。

   Cisco は音声とビデオファイルのアーカイブを作成しました。zip ファイルはこのウェブページの [カスタマイズ（Customization）] サブセクションからダウンロードできます。 カスタムファイルとデフォルトファイルの混在が必要な場合は、ファイルを個別に使用できます。 必要なファイルをディレクトリにコピーする必要があります。 ファイルが見つからない場合、代替ファイルまたは既定ファイルは代わりに使用されません。

2. API を使用して、resourceLocation フィールドを指定して callBrandingProfile を作成し、カスタマイズされたファイルが保存されるウェブサーバー上の URL を作成します。 （詳細はセクションを参照してください）。 Meeting Server はこれらの情報を使って Web サーバーからファイルを取得します。

   注：resourceLocation が指定されていない場合、デフォルトで Cisco ロゴが使用されます。

3. この callBrandingProfile を使用して次の場所で SIP/Lync 通話をカスタマイズします:

   a. システムレベル (つまり、グローバルシステムプロファイルの一部として)

   b. テナントごと (テナント定義の一部)

   c. スペースごと (スペース定義の一部)

   注：コールブランディングが複数のレベルで適用されている場合、定義されている最も低いレベルの callBrandingProfile がコールレッグで使用されます。 システム レベルで適用される callBrandingProfile だけが、単一ブランディングに使用されます。 API リファレンスの「プロファイルを使用する」セクションを参照してください。

3.2.5 見つからないファイルと無効なファイル

Web サーバーに存在しないファイルおよび無効な形式のファイルは、代替ファイルまたは既定のファイルが利用できない限り、無視されます。

表 8: 代替ファイルとデフォルトファイル

ファイルが見つからないか無効です	代替または既定のファイル
背景.jpg	代替ファイルがありません。画面は真っ暗のままです。
passcode_background.jpg	背景.jpg *
passcode_or_blank_required_background.jpg	background.jpg *
passcode_or_blank_timeout_background.jpg	background.jpg *
deactivated_background.jpg	background.jpg *
welcome.wav	代替または既定のファイルはありません **
timeout.wav	代替または既定のファイルはありません **
call_join_confirmation.wav	代替または既定のファイルはありません **
call_join.wav	代替または既定のファイルはありません **
call_outgoing_welcome.wav	代替または既定のファイルはありません **
cospace_join_confirmation.wav	代替または既定のファイルはありません **
cospace_join.wav	代替または既定のファイルはありません **
cospace_outgoing_welcome.wav	代替または既定のファイルはありません **
disconnected.wav	代替または既定のファイルはありません **
meeting_recorded.wav	代替または既定のファイルはありません **
meeting_recording_ended.wav	代替または既定のファイルはありません **
meeting_streamed.wav	代替または既定のファイルはありません **
meeting_streaming_ended.wav	代替または既定のファイルはありません **
meeting_ended.wav	代替または既定のファイルはありません **
meeting_locked.wav	代替または既定のファイルはありません **
meeting_unlocked.wav	代替または既定のファイルはありません **
only_participant.wav	代替または既定のファイルはありません **
participant_join.wav	代替または既定のファイルはありません **
participant_leave.wav	代替または既定のファイルはありません **
passcode_entry.wav	代替または既定のファイルはありません **
passcode_or_blank_required_ entry.wav	代替または既定のファイルはありません **
passcode_or_blank_timeout_ entry.wav	代替または既定のファイルはありません **
passcode_incorrect_try_ again.wav	代替または既定のファイルはありません **
passcode_incorrect_final_ attempt.wav	代替または既定のファイルはありません **
passcode_incorrect_ goodbye.wav	代替または既定のファイルはありません **

ファイルが見つからないか無効です	代替または既定のファイル
total_participant_1.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_2.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_3.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_4.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_5.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_6.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_7.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_8.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_9.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_10.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_11.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_12.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_13.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_14.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_15.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_16.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_17.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_18.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_19.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_20.wav	代替または既定のファイルはありません **
total_participant_greater_than_ 20.wav	代替または既定のファイルはありません **
waiting_for_host.wav	代替または既定のファイルはありません **

注：* 複数の背景ファイルを読み込む必要はありません。単一のファイルが自動的に欠落した画像を置き換えるために使用されます。

注：** この音声ファイルが存在しないか、形式が無効な場合は、何も再生されません。

4 招待状のテキストのカスタマイズ

招待状テキストのカスタマイズはテンプレートを使って行います。

注：新しいリリースへのアップグレード時に、既存のカスタムメール招待テンプレートは新しいリリースに移行できないため、管理者はすべてのカスタム メール招待テンプレートを再作成する必要があります。

4.1 Cisco Meeting Server web app のカスタムメール招待状

Meeting Server 2.9 では、新しい Cisco Cisco Meeting Server web app で使用するためのカスタムメール招待状が導入されました。

これにより、管理者はさまざまな招待メール テンプレートを作成してアップロードできるようになり、ウェブアプリユーザーは次のことができるようになります。

- 選択した言語で招待メールを他のユーザーに送信し、今後のミーティングに参加するように誘う。
- 外部および内部参加者など、さまざまな対象者に適切なメール招待状を送信する。

Meeting Server 3.2 以降のバージョンでは、管理者は callBridges API を使用してメール招待テキストを取得することもできます。 API の使用に関する詳細は、『API リファレンスガイド』を参照してください。

注：ウェブアプリのカスタムメール招待状には、ローカルでホストされるブランディングの使用をおすすめします。 しかし、より複雑な導入（マルチテナント導入など）で複数の言語を使用する場合は、リモートのブランディング Web サーバーを使用する必要があります。 詳細については、「Web Bridge 3 を使用してウェブアプリをカスタマイズする手順（Web サーバーのホスト型ブランディング）の概要」（42 ページ）を参照してください。

4.1.1 ウェブアプリの招待テンプレートの種類

ウェブ アプリは、さまざまな言語およびさまざまな対象ユーザ向けの招待テンプレートのサポートを提供します。

4.1.1.1 異なる言語の招待状のテンプレート

既定のメール招待状テンプレートは .txt ファイルで、ウェブアプリでは 23 の言語で利用できます。

- invitation_template_xx_XX.txt

xx_XX を言語コードに置き換えてください。 例:invitation_template_fr_CA.txt 下の表は

サポートされている言語と地域コードの一覧です。

言語	code
チェコ語	cs_CZ
アラビア語	ar_SA
デンマーク語	da_DK
ドイツ語	de_DE
英語 (GB)	en_GB
英語（米国）	ja_JP
スペイン語（スペイン）	es_ES
Suomi (フィンランド語)	fi_FI
フランス語 (カナダ)	fr_CA
フランス語 (欧州)	fr_FR
インドネシア語	id_ID
イタリア語	it_IT
日本語	ja_JP
Korean	ko_KR
ノルウェー語	nb_NO
オランダ語	nl_NL
ポーランド語	pl_PL
ポルトガル語（ブラジル）	pt_BR
ロシア語	ru_RU
スウェーデン語	sv_SE

言語	code
トルコ語	tr_TR
中国語（中国）	zh_CN
中国語（台湾）	zh_TW

既定のテンプレートを上書きする場合は、独自の言語のタグ付きテンプレート ファイルを作成し、ローカルでホストされているブランディングにアップロードできます。 Meeting Server はこれらの言語タグを解釈して、ウェブアプリで適切なテンプレートオプションを返します。

ウェブアプリユーザーは、アップロードされている言語のテンプレートのみを選択できます。言語オプションがアップロードされていない場合、ウェブアプリユーザーのドロップダウンリストには表示されません。

注：クラスタ内のすべての Meeting Server にテンプレートファイルをアップロードする必要があります。

4.1.1.2 さまざまなオーディエンス向けの招待状のテンプレート

ユーザーは、外部と内部の参加者など、さまざまな対象者に適したさまざまなメール招待状を生成できます。 これを行うには、次の命名規則の例を使って招待状テンプレートファイルを作成する必要があります:invitation_template_Internal.txt このファイルは、 4に示すように、メール招待状オプションでは「内部」として表示されます。

招待メールオプションの使用に関する詳細は、 Cisco Meeting Server web app 重要な情報を参照してください。

4.2 招待状テンプレートのテキストファイルを作成する

セクション 4 の情報を使用して、UTF-8 形式のテキスト招待状テンプレートを作成します。 ファイルの種類に適した命名規則を使用してファイルに名前を付けます。例：

- invitation_template.txt（ウェブアプリのドロップダウンリストに**デフォルト**として表示）
- invitation_template_xx_XX.txt
- invitation_template_*Internal*.txt（ファイル名の斜体部分がウェブアプリのドロップダウンリストに表示されます。）

4.2.1 新しい構文で作成されたカスタム招待メールのコンテンツ

バージョン 3.1 ではカスタム招待メールを作成するための新しい構文を導入しています。

注：3.1 へのアップグレードの際、管理者はすべてのカスタムメール招待テンプレートを再作成する必要があります。以前のリリースから 3.1 への既存のカスタムメール招待テンプレートの移行パスがないためです。

ヘッダー

すべてのカスタムメールテンプレートは、「件名：」で開始し、その後に本文と分離するための空行が続く必要があります。 件名ヘッダーは、ヘッダーで指定されたテキストをメールの件名に設定するメールリンクを生成するために使用されます。 ヘッダーに改行文字を使用することはできません。 構文は次のとおりです。

件名: **<subject….>** [その後に空行が続く]

フォーマット

新しいカスタム メール招待状テンプレートの構文では、変数、ループ、条件、インクルード、コールバック、コメント (必要に応じてネストおよび組み合わせ) を使用できます。

条件付きコード、ループなどの記述を可能にする、つまり、改行のエスケープシーケンスなどがあります（3.1 以前と同じ）。 # で始まる新しい行は、テンプレートステートメントを示します。 例:

```
#if name
I can use a name variable as it is set to %name%
#endif
```

"{%"と"%}"を使用して、インラインステートメントを指定することができます。 例:

```
You have been invited to a meeting{% if name %}: %name%{% endif %}
```

"{# my コメント #}" を使ってテンプレートにコメントを書き込むこともできます。 そのため、これらのエスケープシーケンスの間にあるテキストはレンダリングされません。 例:

```
Hello, {# This section is just an intro #}
```

変数

テンプレートには、変数と条件の両方を含めることができます。 これにより、単一のテンプレートを複数のスペースに使用でき、招待状に一貫性を持たせることができます。

%<var name>% は変数の内容で置換されます。 現在定義されてい

る変数の詳細を以下に示します。

表 9: 招待状テンプレートの変数

変数名、説明、および例
name これは、cospace の名前に置換されます。 コンテンツがあるかどうかを確認するには、長さを確認するか、null ではないかどうかを確認します。 例: #if name The cospace name is %name% #endif #if length(name)>0 The cospace name is %name% #endif
uri ウェブアプリで「URI による参加」か、エンドポイントでダイヤルインする cospace URI。 長さによって、または null に設定されている場合に確認できます。 **#if uri** **The uri is: %uri%** **#endif** **#if length(uri) > 0** **The uri is: %uri%** **#endif**
変数名、説明、および例開催者名 organizer name これは、招待メールの開催者名に置き換えられます。 **#if organizername** **Organizer: %organizername%** **#endif**

変数名、説明、および例
数値 ID これは cospace の callId です。 これは通常、cospace を表す数字の識別子です。 長さ、または null に設定されている場合に確認できます。 例： **#if numeric_id** **ミーティング ID は %numeric_id% です。** **#endif** **#if length(numeric_id) > 0** **ミーティング ID は %numeric_id% です。** **#endif**
パスコード スペースに割り当てられたパスコードです。 長さ、または null に設定されている場合に確認できます。 例： **#if passcode** **このミーティングではパスコードが必要です: %passcode%** **#endif** **#if length(passcode) > 0** **このミーティングではパスコードが必要です: %passcode%** **#endif**

変数名、説明、および例
変数名、説明、および例ivr_numbers これは、オブジェクトの配列で、ラベルと番号を含みます。 (3.1 以前、カスタム メール テンプレートで使用されていた dial_pstn 変数に代わるものです。) それは空の配列であることができ、内部変数ラベルと番号にアクセスするにはループする必要があります。 null でチェックすることはできません。長さでのみ確認できます。 • label：Meeting Server API を使用して登録するときに、この IVR 番号に割り当てられたラベル。 • number: ダイヤルインする IVR 番号。 例： **#if length(ivr_numbers) > 0** **次のダイヤルイン番号を使用できます**: **%ivr_numbers.0.number%** **%** **#endif** **#for ivr_number in ivr_numbers** **%loop.index1% - %ivr_number.label%: %ivr_number.number%** **#endfor**
web_bridge_addresses これは、ラベル、アドレス、およびハイパーリンクを含む オブジェクトの配列です。 （3.1 より前のカスタムメールテンプレートで使用されていたハイパーリンクと webridge_url 変数を置き換えます。） 空にすることはできますが、null かどうかを確認することはできず、長さだけで確認できます。 • label：この Web Bridge アドレスに Meeting Server API 経由で登録される際に割り当てられたラベル。例: ウェブ アプリ アドレス • address：この Web Bridge 上のウェブアプリにアクセスするために使用できる HTTPS アドレス。例: https://join.mydomain.com/ • hyperlink：スペースに空ではない callId（ミーティング id または number_id）があり、このオブジェクトに空ではないアドレスがある場合、一意のハイパーリンクが生成され、パスコードをリクエストすることなく特定のミーティングに直接参加できます。 例： **#if length(web_bridge_addresses) > 0** **You can use the following web app address: %web_bridge_addresses.0.address%** **#endif** **#for wba in web_bridge_addresses** **Label: %wba.label%** **アドレス**: %wba. address% **ハイパーリンク**: **%wba.hyperlink%** **#endfor**

ループ

"for" および "endfor" キーワードを使用することで、ループを使用できます。 例:

```
#for ivr_number in ivr_numbers
%loop.index1% - %ivr_number.label%: %ivr_number.number%
#endfor
```

ループでは、特別な変数は次のとおりです。

- loop.index (number): Loop iteration number starting from 0.
- loop.index1 (number): Loop iteration number starting from 1.
- loop.is_first (ブール値): 反復が最初の反復の場合。
- loop.is_last (ブール値): 反復が最後の反復の場合。
- loop.parent.*：ネストされたループでは、親のループ変数は、loop.parent.<name of var> を使用して利用できます。例：loop.parent.is_first。

また、web_bridge_address または ivr_number のようなオブジェクトを繰り返すことができます。 例:

```
#for ivr_number in ivr_numbers
{%- for key, value in ivr_number -%}
%key%: %value%
{%- endfor -%}
#endfor
```

条件

条件は、典型的な「if」および「else」ステートメントをサポートします。 例：

パスコードの長さによって異なるものを印刷する

```
{% if length(passcode) >= 3 %}…{% else if length(passcode) >= 10 %}…{% endif
%}
```

特定のフィールドが web_bridge_address に設定されている場合にのみ何かを印刷する

```
{% if web_bridge_address.hyperlink %}…{% endif %}
```

論理演算

「and」、「or」、「not」を使用して、複雑な条件を生成できます。 例:

```
{% if numeric_id and passcode %}…{% endif %}
{% if not name %}…{% endif %}
```

関数

テンプレート構文にはいくつかの関数が実装されています。 以下に詳細を示します。

文字列のケースに対する upper 関数と lower 関数。 例:

```
Join {% upper(name) %}
Join {% lower(name) %}
```

範囲機能はループに便利です。 例：

```
{% for i in range(4) %} %loop.index1% {% endfor %}
{# It will show only the first two web_bridge_addresses #}
{% for i in range(2) %} %at(web_bridge_addresses, i).address% {% endfor %}
```

リストの最初と最後の要素を取得します。 例:

```
The first ivr_number: % first(ivr_numbers).number %
The last ivr_number: % last(ivr_numbers).number %
```

リストをソートします。 . 例:

```
#for sort(ivr_numbers)
...
#endfor

{# Produces [1, 2, 3] #}
% sort([3,2,1]) %
```

指定された精度に数値を四捨五入します。 . 例:

```
{# returns 1 #}
% round(1.4142135, 0) %
{# returns 1.4 #}
% round(1.4142135, 1) %
```

値が奇数、偶数、または割り切れるかどうかを確認します。 例:

```
{# は true を返します #}
% odd(1) %
{# は true を返します #}
% even(2) %
{# は true を返します #}
% divisibleBy(42, 7) %
```

リストの最大値および最小値。 例:

```
{# returns 3 #}
% max([1,2,3]) %
{# returns 1 #}
% min([1,2,3]) %
```

文字列を数字に変換します。 例:

```
# if int(ivr_number) >= 123123
...
```

```
#endif
```

変数が定義されていない場合に既定値を設定します。 そうしないと、テンプレートのレンダリングが失敗し、結果が表示されません。 例:

```
{%if default(has_valid_ivr_number, false) %}... {% endif %}
```

オブジェクトにキーが存在するかどうかを確認します。 例:

```
{# は false を返します #}
% exists("pstn_dial_in") %
{# は true を返します #}
% existsIn("a", myobj) %
{# は false を返します #}
% existsIn("c", myobj) %
```

キーが特定のタイプかどうかを確認します。 例:

```
{# は true を返します #}
% isArray(ivr_numbers) %
{# は true を返します #}
% isString(ivr_numbers.0.number) %
{# は false を返します #}
% isString(int(ivr.numbers.0.number)) %
Implemented type checks are: isArray, isBoolean, isFloat, isInteger, isNumber,
isObject, isString,
```

空白制御

空白はデフォルトで削除されます。 より読みやすいテンプレートのスタイルをサポートするために、ステートメントと式の両方の空白を手動で削除することもできます。 最初または最後にマイナス記号（-）を追加すると、そのブロックの前または後の空白が削除されます。 例:

```
Cospace name: % name -%.
{# Produces: Cospace name: blah. #}
```

ステートメントまたは式の背後で取り除くと、改行も削除されます。

4.2.2 招待状テンプレートの例

注：

- 招待状テンプレートの .txt ファイルのサイズには 10000 バイト*の制限があります。
- すべての招待状テンプレートは UTF-8 形式で提供する必要があります。
- 拡張 ASCII 文字には対応していません。

- UTF-8 形式の招待状テンプレートの .txt ファイルには、Unix の改行文字（LF など）を使用する必要があります（Windowsが使用する CRLF ではなく）。 Unix の行末を省略すると、ファイルは機能しません。
- 言語 .txt ファイルは、その言語バリアント（IANA 言語サブタグレジストリによる定義）に適切な言語タグを持つ必要があります。2 つの小文字は言語コードを示し、2 つの大文字は地域コードを示します。 例えば、invitation_template_en_GB.txt の場合、「en」が英語、「GB」が地域（英国）です。
- ファイル名の「invitation_template」から .txt 拡張子までの部分は、英数字および「_」（アンダースコア）を最大 32 文字使用できます（例：正規表現として ^[a-zA-Z_]{1, 32}$）.

注：このマニュアルの発行時点で、Windows 上の Google Chrome からウェブアプリを使用している場合、招待状テンプレートのファイルサイズが 1491 バイトを超える場合、[**招待**（Invite）] > [**電子メールの送信**（Send email）] または [**メールを開く**（Open email）] オプションは失敗します。 これは Google Chrome ブラウザの既知の問題です。この問題の詳細については、https://bugs.chromium.org/p/chromium/issues/detail?id=1034497 を参照してください。

これがウェブアプリで発生すると、[**メールを開く**（Open email）] はグレーになりますが、[**コピー**（Copy）] を選択すると、ミーティング参加情報をメールクライアントに貼り付けることができます。

以下の例を使用して、プレースホルダーに特定の値を入れてカスタマイズします。 上で定義された適切なファイル名形式を使用して保存します。

注：「件名：」ヘッダーの後に、本文と区別するために空行を入れる必要があります。

```
Subject: {% if name %}あなたはミーティングに招待されています: %name%{% else %}あなたはミーティングに招待されています{% endif %}

#if numeric_id
Meeting ID: %numeric_id%
#if passcode
Meeting passcode: %passcode%
#endif
#endif
```

```
#for wba in sort(web_bridge_addresses)
#if wba.address or wba.hyperlink
#if loop.index == 0
コンピュータ、携帯電話またはタブレットから参加する #endif
{% if wba.label %} %wba.label%:{% endif %} {% if wba.hyperlink
%}%wba.hyperlink%{% else %}%wba.address%{% endif %}
#endif
#endfor

#for ivrn in sort(ivr_numbers)
#if ivrn.number
#if loop.index == 0
Join by phone
#endif
{%if ivrn.label %} %ivrn.label%:{% endif %} %ivrn.number%
#endif
#endfor

#if uri
Join from a video conferencing system or application
Dial %uri%
#endif
```

4.3 Web Bridge 3 を使用してウェブアプリをカスタマイズする手順（Web サーバーのホスト型ブランディング）の概要

ウェブ アプリのカスタム メール招待テンプレートには、ローカルでホストされるブランディングを使用することをお勧めします。 詳細については、「ローカルでホストされるブランディングを実施する」を参照してください。

リモート Web サーバーが主催するブランディングを使用する必要があるのは、coSpace ごとに異なるカスタマイズされた招待状テンプレートのセットが必要な場合だけです。 例えば、複数のテナントがあり、それぞれが独自のカスタム招待状テンプレートを持つことを望む場合です。

以下の手順は、リモート Web サーバーが主催するブランディングのカスタマイズ手順の概要を示しています。

注：招待状のテンプレートはすべて UTF-8 形式で提供する必要があります。 拡張 ASCII 文字には対応していません。 UTF-8 形式の招待状テンプレートの .txt ファイルには、Unix の改行文字（LF など）を使用する必要があります（Windowsが使用する CRLF ではなく）。 Unix の行末を省略すると、ファイルは機能しません。

---

1. クエリ文字列を正しく処理できるサーバー側スクリプトを作成し、それによってリモート Web サーバーを設定します。リクエストされた正しい招待テンプレートを返すようにします。

   実行方法の詳細は次の例を参照してください: https://github.com/ciscocms/example-http-invites（Meeting Server は既存の展開との下位互換性を確保するためにこの方法を使用します。）

2. API を使用して、callBrandingProfile を作成し、invitationTemplate フィールドとテンプレートが保存されている Web サーバー上の URL を指定します。サーバー側スクリプトへのフルパスを指定する必要があります。例：http://192.0.2.0/branding/invitation.cgi. Meeting Server はこれらの情報を使って Web サーバーからテンプレートを取得します。

   ウェブ アプリを使用する場合、ウェブ アプリのドロップダウン リストで選択されたオプションに応じて、要求された言語または文字列 (「内部」など) をクエリ文字列として URL に追加しようとします。次に例を示します。

   - http://192.0.2.0/branding/invitation.cgi?language=es_ES

   または

   - http://192.0.2.0/branding/invitation.cgi?language=Internal

3. 招待状をカスタマイズするには、この callBrandingProfile を使用します。

   - システムレベル (つまり、グローバルシステムプロファイルの一部として)
   - テナントごと (テナント定義の一部)
   - スペースごと (スペース定義の一部)

5 ローカルホストのブランディングを実装する

ローカルでホストされているブランディングファイルを使用している場合、以下の手順はカスタマイズ手順の概要を提供します。

注：Web サーバーからローカルでファイルをホストする方法に変更する場合、セクション 7.1 のガイダンスに従ってから、次の手順を実行してください。

注：ローカルホストのブランディングの使用制限については、「ローカルホストのブランディングの使用制限」 を参照してください。

5.1 ウェブ アプリのカスタマイズ

ウェブ アプリのブランディング ファイルは、アーカイブ (zip) ファイル内に保持されています。 Web サーバーからローカルでファイルをホストする形式に変更する場合、 セクション 7.1 のガイダンスに従ってから、次の手順を実行します。

以下のステップはカスタマイズ手順の概要を提供します。詳細な手順については、カスタマイズのガイドラインを参照してください。

注：次の手順で使用するコマンドは、コンソール/ターミナル環境（コマンドプロンプトまたはターミナル）を対象としたものであり、WinSCP などの SFTP クライアントを対象としたものではありません。

---

1. これらのファイルを含む zip アーカイブファイルを作成します。
   - favicon.png
   - sign_in_background.jpg
   - sign_in_logo.png
   - text_strings.json
   - vb_images_<画像番号>.jpeg
   - utils.json

注意: ファイルを圧縮する場合、ブランドファイルを含むフォルダは圧縮しないでください。これが行われると、フォルダの追加レイヤーが作成されます（zip 形式のファイル > フォルダ > ブランド化されたファイル）。 代わりに、ブランド化されたファイルをハイライト表示し、それらを右クリックして zip 形式に圧縮します（または、zip アプリケーションを開き、ファイルをまとめて zip 形式で圧縮します）。 これにより、フォルダーの追加レイヤーを作成せずに、ブランド ファイルを含む zip ファイルが作成されます (例、zip ファイル > ブランドファイル)。

注：この zip ファイルには web_branding.zip という名前を付ける必要があります。別のファイル名は使用できません。

---

2. この zip アーカイブをローカルでホストする Web Bridge が有効になっている各 Meeting Server に対して、
   a. SFTP クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
   b. MMP 管理者ユーザーの資格情報を使用してログインします。
   c. zip ファイル **web_branding.zip** をアップロードします。 次に例を示します。

      ```
      PUT web_branding.zip
      ```

   d. SSH クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
   e. MMP 管理者ユーザーの資格情報を使用してログインします。
   f. Web Bridge を再起動する

      ```
      webbridge restart
      ```

   新しいブランディングは再起動後に有効になります。 Web Bridge は、Call Bridge に頼るのではなく、WebRTC アプリのためにローカルでホストされているブランディングファイルを取得します。

5.2 IVR メッセージ、SIP/Lync 通話メッセージ、招待状テキストのカスタマイズ

IVR メッセージ、SIP/Lync 通話メッセージ、および招待テキストをローカルでホストするには、Call Bridge ブランディング zip ファイルを作成する必要があります。

次の手順では、カスタマイズ手順の概要を説明しています。詳細な手順については、『カスタマイズガイドライン』を参照してください。

1. 通話ブランディングの zip ファイルを作成します。正しく処理されるように、このファイルには **call_branding.zip** という名前を付ける必要があります。

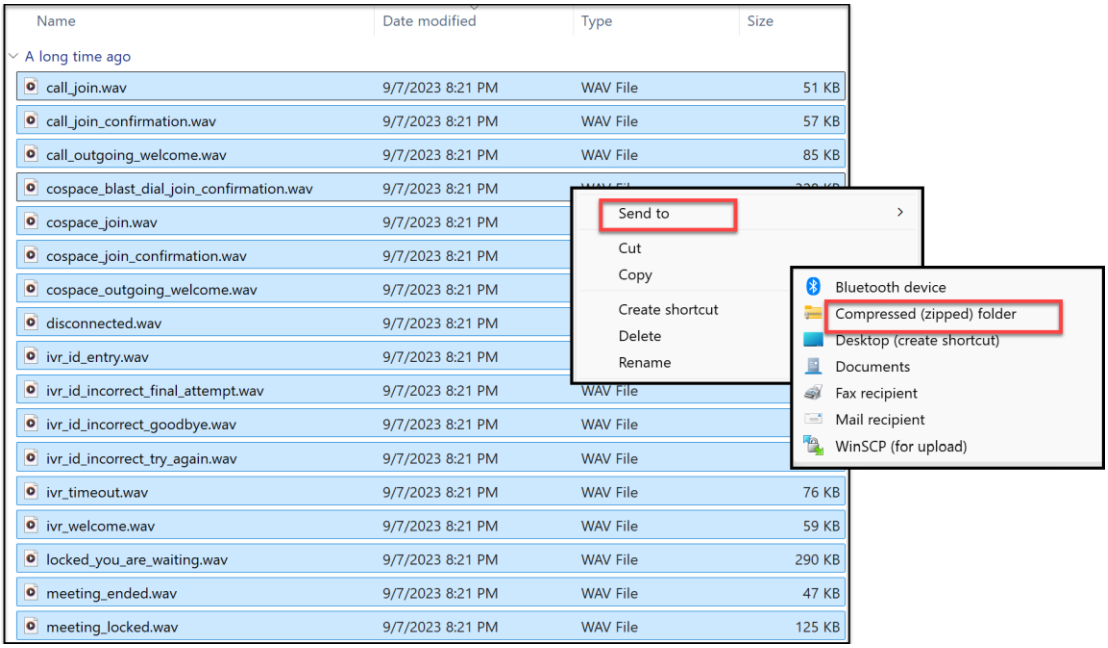
   a. 『カスタマイズガイドライン』の第 3 章にリストされているファイルで単一のフォルダを作成します。これらのファイルは Web サーバーが導入されている場合に使用されるものと同じです。

   注：ローカルで主催されるブランディングでは、通話の背景画像と ivr 背景画像には **background.jpg** のみが使用されます。**passcode_background.jpg**、**passcode_or_blank_required_background.jpg**、**passcode_or_blank_timeout_background.jpg**、**deactivated_background.jpg** と **ivr_background.jpg** は無視されます。

   b. ガイドラインの第 4 章に記載されているとおり、招待文を含むファイル invitation_template*.txt をフォルダに追加します。

   注：このコールブランディング zip ファイルでは、Web サーバーで別のファイル名を既に使用していても invitation_ template*.txt のファイル名規則を使用する必要があります。

   c. フォルダ内のファイルを zip 形式に圧縮します。すべてのファイルは、zip ファイルの最上位にあります（zip ファイルにネストされているフォルダはありません）。ファイル名は、call_branding.zip にする必要があります。



MAC システムの場合、

2. すべての Call Bridge に IVR、通話、招待のカスタマイズをインストールします。 各 Meeting Server について、
   a. SFTP クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
   b. MMP 管理者ユーザーの資格情報を使用してログインします。
   c. zip ファイル **`call_branding.zip`** をアップロードします。 次に例を示します。

      ```
      PUT call_branding.zip
      ```

   d. SSH クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
   e. MMP 管理者ユーザーの資格情報を使用してログインします。
   f. Call Bridge を再起動します

      ```
      callbridge restart
      ```

新しいブランディングは再起動後に有効になります。

5.3 カスタマイズした invitation_template*.txt をテストする

ウェブ アプリの場合

Meeting Server は、リモートサーバーから取得した招待状テンプレートを 2 分間キャッシュしてから再度リクエストします。 ウェブアプリの招待ポップアップを一度閉じると、招待が再度リクエストされ、その 2 分間のキャッシュ期間の後、リクエストされた言語ごとに再生成されます。

5.4 ローカルでホストされているブランディングファイルを削除する

ローカル ブランディング ファイルをホストする各 Meeting Server に対して、これらのステップを実行します。

1. SFTP クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
2. MMP 管理者ユーザーの資格情報を使用してログインします。
3. ローカルでホストされているブランディングファイルを Web Bridge から削除する

   ```
   RM web_branding.zip
   ```

4. ローカルでホストされているブランディングファイルを Call Bridge から削除します。

   ```
   RM call_branding.zip
   ```

5. SSH クライアントを MMP の IP アドレスに接続します。
6. MMP 管理者ユーザーの資格情報を使用してログインします。
7. Web Bridge を再起動する

   ```
   webbridge3 restart
   ```

8. Call Bridge を再起動します

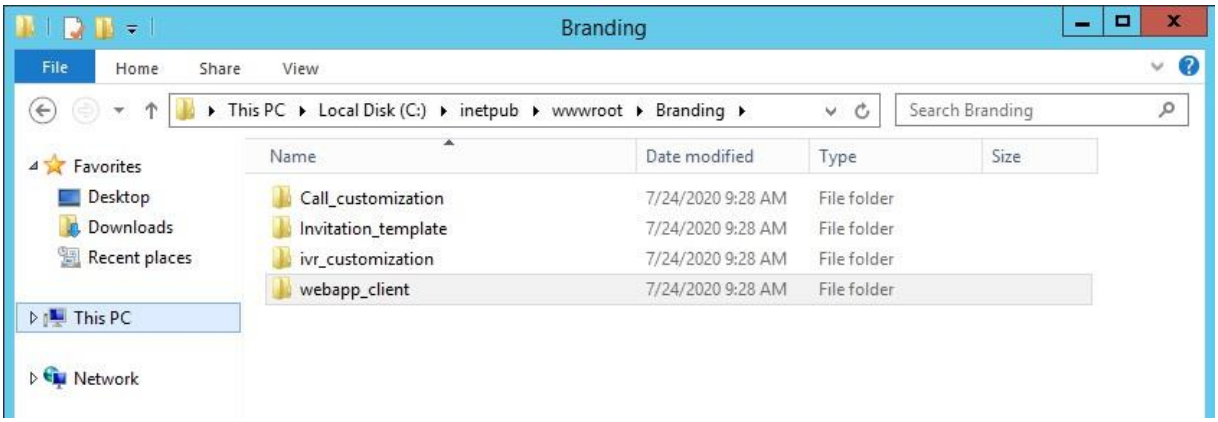
   ```
   callbridge restart
   ```

6 API を使用してリモートブランディングを実装する

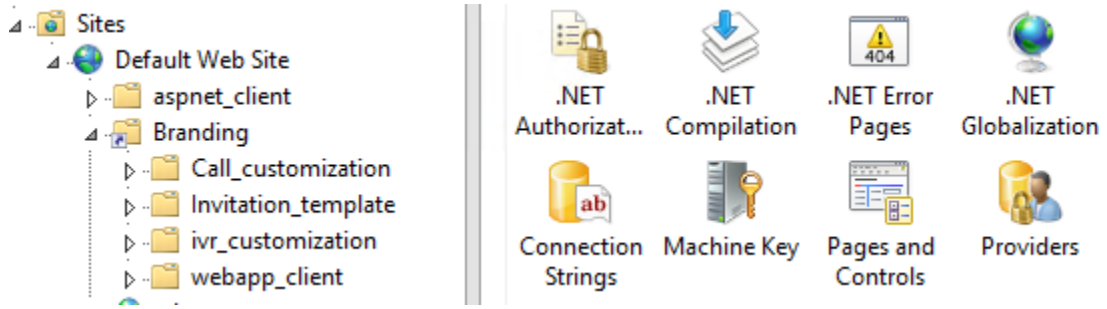
この項では、Web サーバーがホストするブランディングシナリオで、Microsoft Windows を使用したコールブランディングの例を、ステップを追った例を示しながら説明します。 ここでは、Microsoft インターネット インフォメーション サービス（IIS）マネージャと、コール ブランディング ファイルをホストする Web サーバー上に最新のパッチがインストールされていることを前提としています。

6.1 Web サーバーを設定する

1. Web サーバーで、既定の IIS マネージャーの場所 c:\inetpub\wwwroot の下にブランディング/カスタムファイルを保持するディレクトリ構造を作成します。 以下の例は、Branding フォルダと 4 つのサブフォルダ：Call_customization、Invitation_template、ivr_customization、webapp_client を示しています。



2. IIS マネージャーを開き、[既定のウェブサイト（Default Web Site）] を展開します。 新しく作成されたフォルダがリストに表示されます。



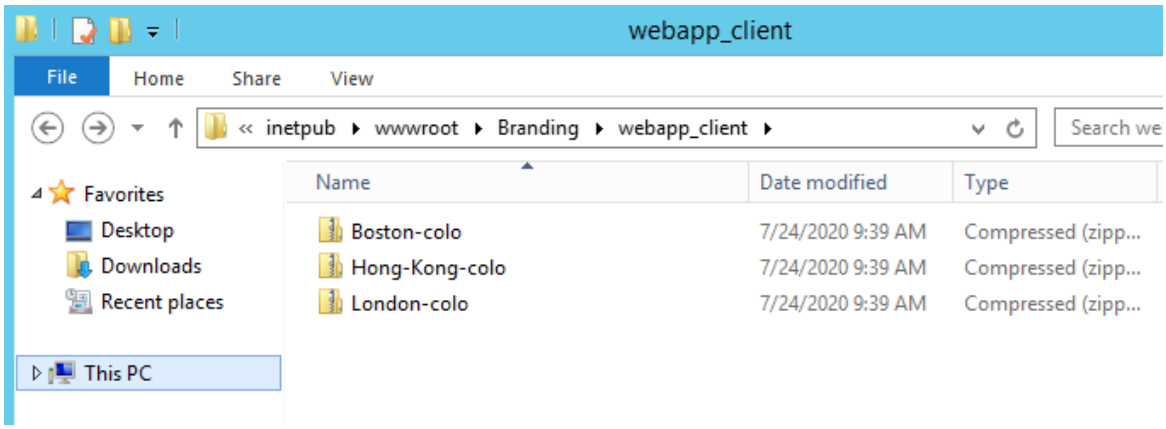
注：新しく作成したフォルダがリストに表示されない場合、またはフォルダが標準の IIS マネージャの場所の外にある場合、新しい仮想ディレクトリを作成する必要があります。 IIS 内で、

[既定のウェブサイト] に移動し、右クリックして [仮想ディレクトリ] を選択します。 このフォルダのエイリアスを指定し、ファイルが存在する物理パスを参照します。

---

1. 使用するブランディングのレベルに適切なフォルダにすべてのファイルを配置します。

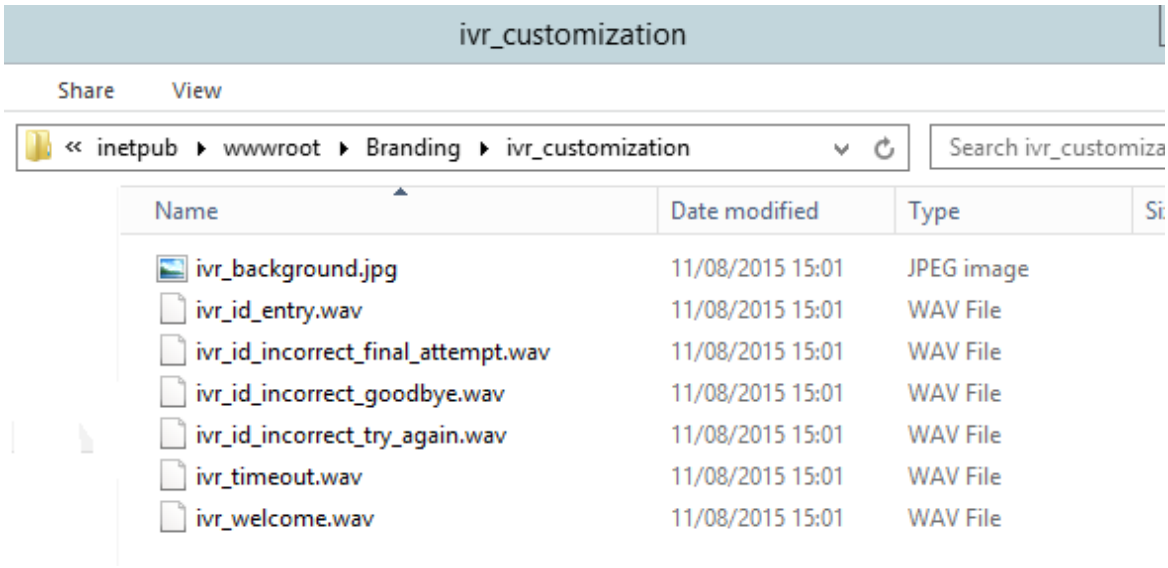
   a. ウェブアプリのカスタマイズの場合、これらはセクション 2.2 の zip ファイルになります。



注：上のスクリーンショットでは、webapp_client カスタマイズファイルが場所ごとに圧縮されています。

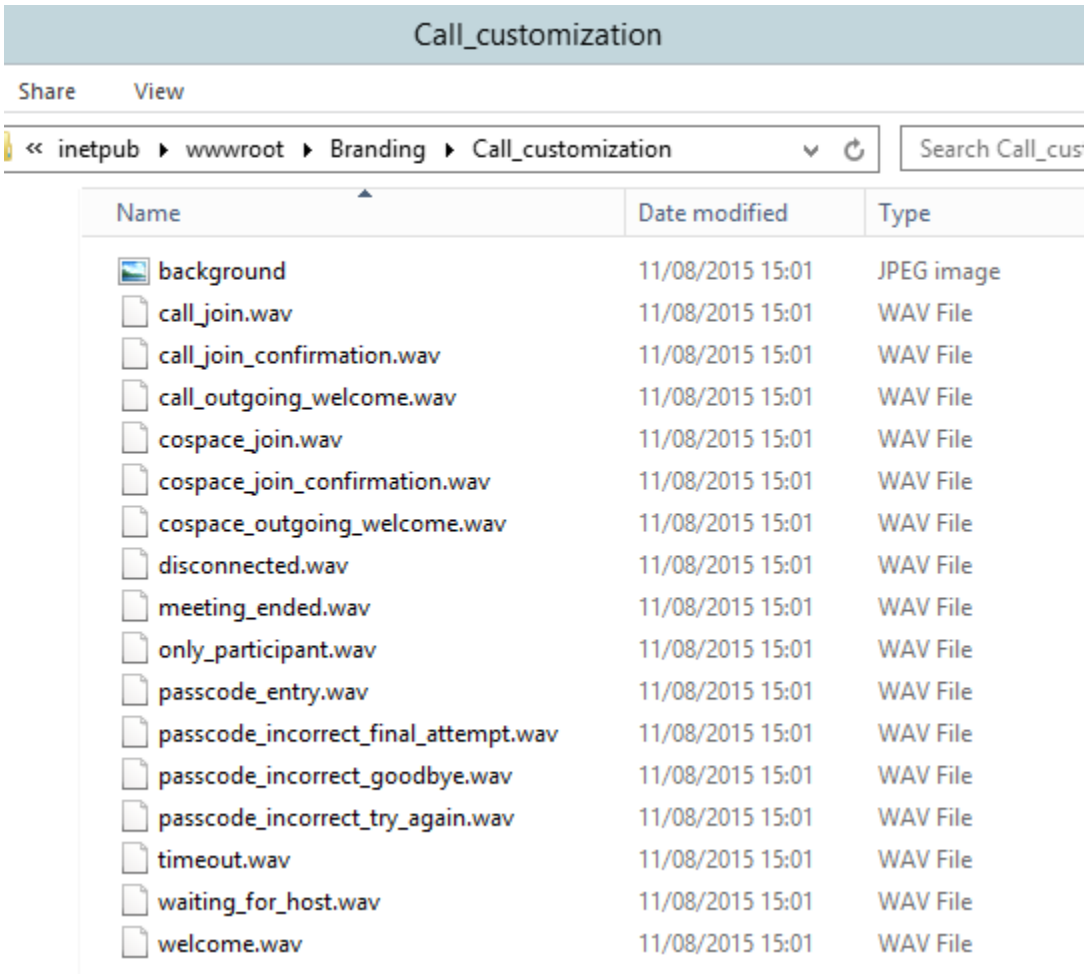
---

b. IVR カスタマイズの場合、これらは セクション 3.1 のファイルになります。



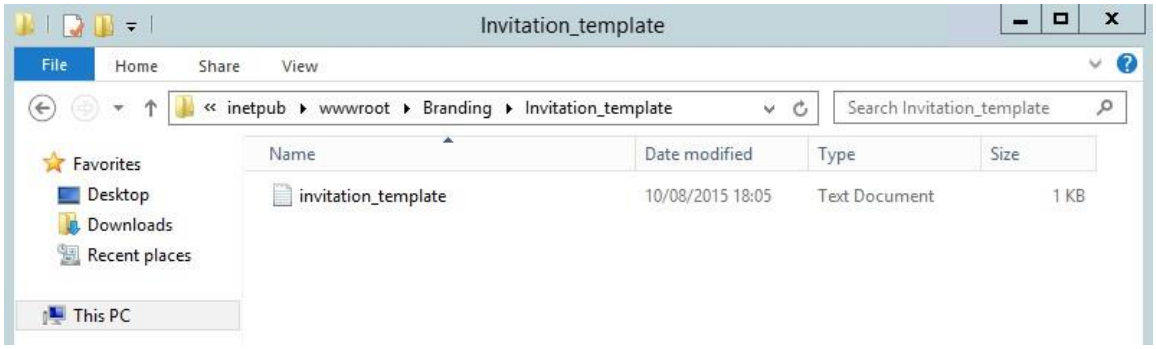
注：IVR カスタマイズ用のファイルは zip 形式で圧縮されていません。

c. 通話のカスタマイズの場合、これらは セクション 3 のファイルになります。



注：コールカスタマイズ用のファイルは zip 形式で圧縮されていません。

d. 招待状テンプレート用に、 第 4 章で作成したファイルを使用します。

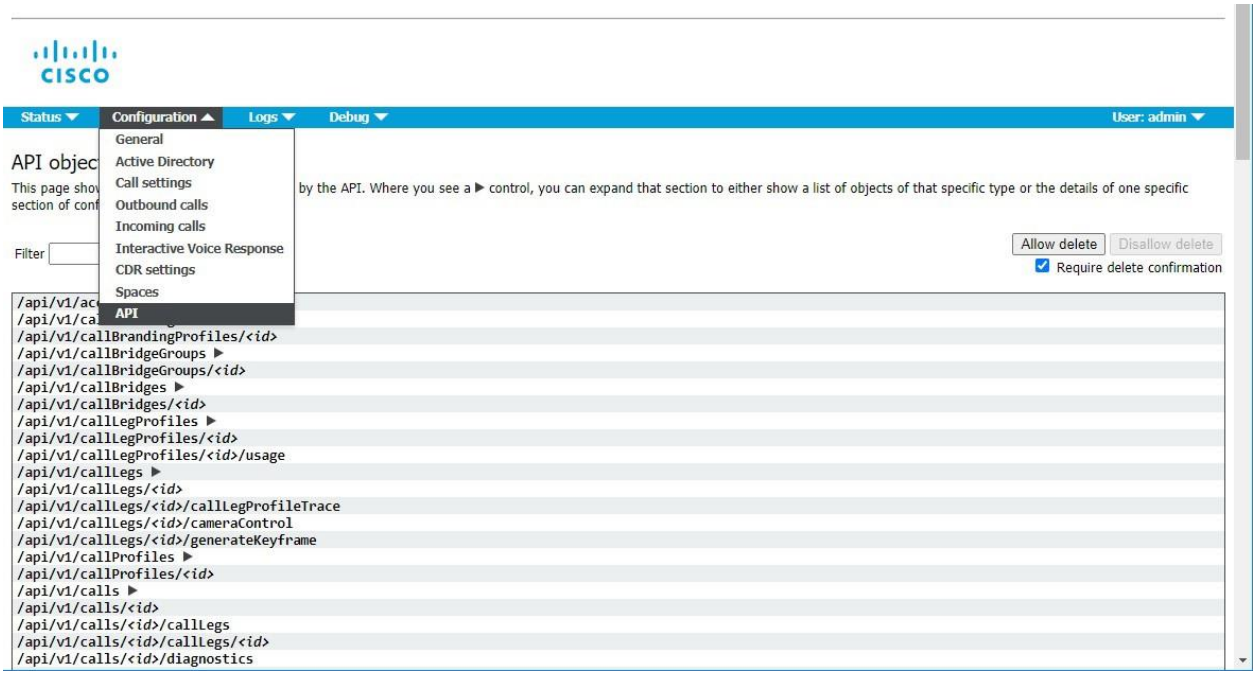


6.2 ブランディングに API を使用する

この章の残りの部分では、Meeting Server ウェブ管理インタフェース経由でアクセスされる API を使用してウェブアプリ、IVR、SIP 通話をブランド化し、カスタム招待状を適用する例を示します。API には、API メソッドおよびサードパーティ アプリケーションを使用する代わりに、Meeting Server のウェブ管理インターフェイスを使用してアクセスできます。 ウェブ管理インターフェイ

スにログインした後、[**設定**（Configuration）] タブを選択し、[API] プルダウンリストから選択します。 図 6 を参照してください。

図 6：Meeting Server **ウェブインターフェース経由で** API **にアクセスする**



API の使用に関する詳細は、『API リファレンスガイド』を参照してください。

6.2.1 ウェブアプリにブランディングを適用する

ウェブ アプリのブランディング ファイルは、webBridgeProfile に適用され、webBridge ノードに関連付けられます。 異なるテナントに異なるウェブアプリのブランディングが必要な場合は、ブランドのウェブアプリごとに Web Bridge をセットアップする必要があります。

注：ブランディングサーバーを HTTPS でホストする場合、Meeting Server とブランディングサーバーの証明書が有効なまたは同一の CA により署名されている必要があります。ブランディングサーバーの証明書が有効な CA により署名されていない場合、Meeting Server はブランディングサーバーとの通信に失敗する可能性があります。

---

1. クラスタ内のいずれかのサーバーのウェブ管理インタフェースを使用して、[**設定**（Configuration）] > [API] を選択します。
   a. API オブジェクトのリストで、/api/v1/webBridgeProfiles **後の ▶ をタップします。**
   b. [新規作成] **をクリックします。**
   c. resourceArchive パラメータと、Web サーバー上でウェブ アプリ ブランディング ファイルが保存されている url を入力します。

   この時点で、resourceArchive に以下を適用できます。

d. 個々の Web Bridge レベル：API オブジェクトのリストで、/api/v1/webBridges の後の ▸ をタップし、webBridgeProfile までパラメータをスクロールして、[**選択**（Choose）] をクリックします。 表示されるダイアログから、使用する webBridgeProfile の object id を選択し、ウェブ管理ページに戻って [**作成**（Create）] をクリックします。

または

e. すべての Web Bridge に対してグローバルに：API オブジェクトのリストから、/api/v1/system/profiles の後の ▸ をタップし、[**表示または編集**（View or edit）] をクリックして、パラメータを webBridgeProfile までスクロールダウンして、[**選択**（Choose）] をクリックします。 表示されるダイアログから、使用する webBridgeProfile の object id を選択し、ウェブ管理ページに戻って [**変更**（Modify）] をクリックします。

f. ウェブアプリのブランドファイルを使用して、Web Bridge へのウェブアプリの呼び出しを行うことができます。テスト呼び出しを行って、ブランドファイルが適用されていることを確認します。

6.2.2 SIP 通話および/またはカスタマイズされた招待状にブランディングを適用する

SIP コールのブランディングファイルとカスタマイズされた招待テンプレートは、callBrandingProfiles ノードに適用されます。

注：ブランディングサーバーが HTTPS でホストされている場合、有効な CA または同じ CA が Meeting Server とブランディングサーバー証明書に署名する必要があります。有効な CA がブランディングサーバー証明書に署名しなかった場合、Meeting Server とブランディングサーバー間の通信が失敗する場合があります。

---

1. クラスタ内のいずれかのサーバーのウェブ管理インタフェースを使用して、[**設定**（Configuration）] > [API] を選択します。

   a. API オブジェクトのリストで、/api/v1/callBrandingProfiles の後の ▸ をタップします。

   b. [新規作成] **をクリックします。**

   c. パラメータを resourceLocation および invitationTemplate までスクロールし、Web サーバー上でブランディングファイルが保存されている場所の URL を入力します。 招待状テンプレートの URL には、ファイルへのパスを含む完全なファイル名を指定してください。例: https://192.0.2.23/branding/invitation_template.txt。 http をも使用できます。

注：/Branding の下にサブフォルダを作成した場合、callBrandingProfiles の各サブフォルダの URL を POST する必要があります。

---

d. [**作成**] をクリックします。

2. この新しく作成されたオブジェクト ID を必要なブランディング レベルに割り当てます。
   - システムレベル（つまり、グローバルシステムプロファイルの一部）、
   - テナント単位（テナント定義の一部）、
   - スペース単位（スペース定義の一部）。

   以下の例では、以前に作成されたテナントにブランディングを適用しています。

   a. API オブジェクトのリストで、/api/v1/tenant/ の後の ► をタップします。

   b. 個々のテナントの object id をクリックします。

   c. パラメータを下にスクロールして callBrandingProfile を選択し、[**選択**（Choose）] をクリックします。 このテナントに使用する callBrandingProfile の **オブジェクト** ID を選択します。

   d. [**変更**（Modify）] をクリックします

3. これで、通話ブランディング ファイルがテナントの通話に使用されるようになりました。 SIP エンドポイントからテナントのスペースセットアップへのコールを行います。 通話で背景画像が表示されていること、および音声プロンプトが聞き取れることを確認します。

6.2.3 IVR にブランディングを適用する

IVR のブランディング ファイルは ivrBrandingProfiles ノードに適用されます。 Meeting Server には Web Bridge を 1 つだけ設定できます。 異なるテナントに異なる IVR ブランディングが必要な場合、各ブランド IVR プロファイルに Web Bridge をセットアップする必要があります。

注：ブランディングサーバーが HTTPS でホストされている場合、有効な CA または同じ CA が Meeting Server とブランディングサーバー証明書に署名する必要があります。有効な CA がブランディングサーバー証明書に署名しなかった場合、Meeting Server とブランディングサーバー間の通信が失敗する場合があります。

---

1. クラスタ内のいずれかのサーバーのウェブ管理インタフェースを使用して、[**設定**（Configuration）] > [API] を選択します。

   a. API オブジェクトのリストで、/api/v1/ivrBrandingProfiles の後の ► をタップします。

b. [新規作成] **をクリックします。**

c. Web サーバー上で IVR ブランディングファイルが保存されている resourceLocation URL を入力します。

注意: /Branding の下にサブフォルダを作成した場合、ivr サブフォルダの URL を ivrBrandingProfiles に POST 送信する必要があります。

---

d. [**作成**（Create）] をクリックします

2. この新しく作成されたオブジェクト ID を必要なブランディングレベルに割り当てます。
   - システムレベル（つまり、グローバルシステムプロファイルの一部）、
   - IVR 単位（IVR 定義の一部）。
   - ivrBrandingProfile フィールドと <ivrBrandingProfile id> を入力します

   以下の例では、以前に作成された ivr に ivr ブランディングを適用しています。

   a. API オブジェクトのリストで、/api/v1/ivrs/ の後の ► をタップします。

   b. 個々の ivr の object id をクリックします。

   c. パラメータを下にスクロールして ivrBrandingProfile を選択し、[**選択**（Choose）] をクリックします。 この IVR に使用する ivrBrandingProfile の object id を選択します。

   d. [**変更**（Modify）] をクリックします

3. IVR ブランディングファイルは、指定された IVR への発信に対して現在使用されています。IVR へのテスト発信を行って、ブランディングされた IVR ファイルが適用されていることを確認します。

7 ブランディング方法を切り替える

1 つの方法から別の方法に変更することができますが、2 つの方法を混在させないことをお勧めします。 詳細については、以下の手順を参照してください。

7.1 Web サーバー（またはデフォルト）ブランディングからローカルホストのブランディングへ変更する

Web サーバーまたはデフォルトのブランディングからローカルでホストされるブランディングに変更する場合は、以下の推奨事項に従います。

- すべての Call Bridge について、次のことを確認します。
  - IVR メッセージの **resourceLocation** パラメータが設定されていない場合、**/ivrBrandingProfile/<ivr branding profile id>** で、PUT メソッドを使用して **resourceLocation** パラメータを空白に設定します。
  - 発信メッセージの **resourceLocation** パラメータが設定されていない場合、**/callBrandingProfile/<call branding profile id>** で、PUT メソッドを使用して **resourceLocation** パラメータを空白に設定します。
  - 発信メッセージの **invitationTemplate** パラメータが設定されていない場合、**/callBrandingProfile/<call branding profile id>** で、PUT メソッドを使用して **invitationTemplate** パラメータを空白に設定します。
- Web Bridge が設定されているすべての Call Bridge について、その設定で **resourceArchive** フィールドが設定されていることを確認します。PUT メソッドを使用して API オブジェクト **/webBridgeProfiles** の **resourceArchive** パラメータを設定します。
- スクリプトおよびコールレッグプロファイルの設定での Web サーバー URL の使用を停止します。
- 上記のとおり、すべての Call Bridge で **call_branding.zip** ファイルを設定し、
- 上記のとおり、すべての Web Bridge で **web_branding.zip** ファイルを設定します。

7.2 ローカルでホストされているブランディングから Web サーバーのブランディングに変更する

ローカルでホストされているブランディングから Web サーバーのブランディングに変更する場合は、次の推奨事項に従います。

- 上記のように、ローカルでホストされている **call_branding.zip** ファイルをすべての Call Bridge から削除します。
- 上記のように、ローカルでホストされている **web_branding.zip** ファイルをすべての Web Bridge から削除します。
- すべてのスクリプトと設定を変更して、http://mywebserver/... を使用します（『カスタマイズガイドライン』を参照）。

7.3 ローカルホストと Web サーバーのカスタマイズを混在する

Meeting Server にブランディング zip ファイルをインストールするが、Web サーバーを展開し、それをブランディング リソース ファイルの提供に使用する場合、以下に注意してください。

IVR、コールと招待状のカスタマイズ：

- リモート Web サーバーを使ったカスタマイズはローカルでホストされているファイルを上書きし、
- API フィールドを空のままにするか、未設定の場合、ローカルでホストされているファイルが使用されます。

Cisco Meeting Server web app のカスタマイズ：

- リモート Web サーバーを使ったカスタマイズはローカルでホストされているファイルを上書きします
- クラスタ環境では、ウェブアプリユーザーに一貫したエクスペリエンスを与えるために、同じ招待状テンプレートをクラスタ内のすべてのサーバーにアップロードする必要があります。

7.4 ローカルホストのブランディングの使用制限

- ローカルでホストされるブランディングで使用される背景画像ファイルは background.jpg の 1 つだけです。他の画像ファイルは無視されます。
- パスコードの入力中や IVR 中など、状況に応じて異なる画像の背景が必要な場合は、『カスタマイズガイドライン』に記載されているように、Web サーバーを使ってカスタマイズする方法しかありません。
- 複数のブランディング ファイル セットを使用する場合でも、外部 Web サーバーを使用する必要があります。

- ファイルが大きすぎる、見つからない、または無効な場合は、Web サーバーの同等のものと同じように扱われ、使用されません。 この場合、以下の動作が発生します。
- ウェブアプリのユーザーには、デフォルトのファイルが提供されます（invitation_template_en_US.txt と invitation_template_es_ES.txt）。ローカルでホストされているブランディングにこれらがなく、一般的な invitation_template.txt もない場合、これらのデフォルトのファイルが使用されます。

注：各 Web Bridge 3 で取得できるブランドは 1 つのみです。また、Web Bridge 3 でホストされるローカルとリモートのブランディングに違いはありません。

---

8 ウェブ アプリと SIP エンドポイントの画面レイアウトにロゴを追加する

ミーティング中、参加者の画面にロゴを表示するように Cisco Meeting Server を設定することができます。 管理者はロゴ ファイルをアップロードし、標準およびカスタム レイアウトの特定の位置に表示されるように設定できます。

これはライセンスが必要な機能であり、アクティブなカスタマイズライセンスが Meeting Server に存在する場合に機能します。 この機能はウェブ アプリと SIP エンドポイントでサポートされています。

このセクションでは、ロゴファイルのサイズ要件、およびロゴファイルをアップロードし、Meeting Server ウェブ管理インターフェイスからアクセスされる API を使用して設定するための手順について説明します。

標準およびカスタムレイアウトにロゴを追加するには:

- ロゴ画像は、Call Bridge（SIPの場合）およびWeb Bridge（ウェブアプリの場合）をホストするサーバーに、SFTP を使用してアップロードする必要があります。
- ロゴ画像ファイルは .png 形式で、最大解像度は 256*256 ピクセルで、ファイルサイズは 64 kb 未満でなければなりません。 指定された制限を超える画像のサイズまたは解像度の場合、ロゴ画像はレンダリングされず、syslog エントリにエラーとして記録されます。
- 画面スペースを最適に使用するため、128*128 の画像サイズを推奨します。
- 3.7 での画像ファイルディレクトリの変更により、前のバージョン（3.6）でアップロードされたロゴ画像は Meeting Server 3.7 にアップグレードすると表示されなくなります。 そのため、古いファイルを削除してから、同じ名前または異なる名前の新しいファイルをアップロードすることをお勧めします。これは、SFTP サーバーにコピーされた新しいファイルが 3.7 リリースで適切なファイルディレクトリに移動するようにするために必要です。
- 導入にクラスター環境がある場合、ロゴファイルはクラスタ内のすべての Call Bridge ノードでアップロードする必要があります。

- ロゴは受信者の画面上の次の位置に配置することができます。
  - 左上
  - 左下
  - 右上
  - 右下

左上または左下の位置を選択して、ロゴが参加者数やウェブアプリまたは SIP 画面の右側の録画アイコンを覆わないようにします。

注：コンテンツを共有している間、ウェブアプリ上のロゴの位置は、Meeting Server で設定されたままになります。 SIP エンドポイントではビデオペインにロゴが表示されます。

これらのステップに従ってロゴ画像ファイルを** Meeting Server **にアップロードします。

- SFTP クライアントを使用して、その IP アドレスを使用して MMP にログインします。 ログイン資格情報は、MMP 管理者アカウントに設定されているものです。 Windows を使用している場合は、WinSCP ツールの使用をお勧めします。

  注：
  - ファイル転送に WinSCP を使用している場合、転送設定オプションが適切であることを確認します。
    'text' ではなく 'binary' です。 間違った設定を使用すると、転送されたファイルが元のファイルよりもわずかに小さくなり、アップグレードが正常に行われないことになります。
  - MMP インターフェイスの IP アドレスは、iface a MMP コマンドで見つけることができます。
  - SFTP サーバーは標準ポート 22 で実行されます。

- ロゴ画像の .png ファイルをサーバー/仮想サーバーにコピーします。

注：これはライセンスが必要な機能であり、アクティブなカスタマイズライセンスが Meeting Server に存在する場合にのみ機能します。

API を使用してロゴ画像ファイルを設定するには、以下の手順に従います。

- ウェブ管理インターフェイスを使用して、[**設定**（Configuration）] > [API] の順に選択します。
- API オブジェクトのリストで、/api/v1/callProfiles の後の ▶ をタップしてパラメータを設定するか、ミーティング中にパラメータを変更する場合は、/api/v1/calls の後の ▶ をタップしてください。
- [**新規作成**（Create New）] または [**変更**（Modify）] をクリックします。
- 以下のパラメータを設定します。

パラメータ	タイプ/値	説明
ロゴファイル名	String	SFTP を使用してアップロードされた画像ファイルの名前で、ファイル名は 128 文字に制限されています。
ロゴの位置	leftTop| leftBottom| rightTop| rightBottom	受信者の画面上で表示されるロゴの位置です。 すべてのレベルで設定解除した場合、ロゴの位置はデフォルトの **左上** に配置されます。

- [**作成/変更**（Create/Modify）] をクリックします。
- 作成された callProfile を coSpace にマッピングします。

ロゴファイルがアップロードされ、受信者の画面に表示されるように設定されました。

Cisco の法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。 このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。 このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。 添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB（University of California, Berkeley）のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。 All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.
ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。 CISCO およびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、CISCO およびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性が CISCO またはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

★定型★このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。 ★定型★マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。 説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この文書の印刷されたハード コピーおよび複製されたソフト コピーは、すべて管理対象外と見なされます。 最新版については、現在のオンライン バージョンを参照してください。

Cisco は世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。 各オフィスの住所と電話番号は、当社の Web サイト www.cisco.com/go/offices. をご覧ください。

© 2024 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco の商標または登録商標

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。 シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/jp/go/trademarks をご覧ください。 記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。 「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。 （1721R）